

# 令和7年度第2回舞鶴市総合計画審議会 次 第

日時 令和8年2月16日（月）  
14時00分～  
場所 舞鶴赤れんがパーク  
市政記念館ホール

1. 開会

2. 市長あいさつ

3. 委員紹介

4. 議事（協議・報告事項）

（1）次期総合計画の進捗報告について（30分）

（2）意見交換（70分）

舞鶴市総合計画審議会 委員名簿（敬称略）

委嘱期間：令和5年4月1日～令和9年3月31日

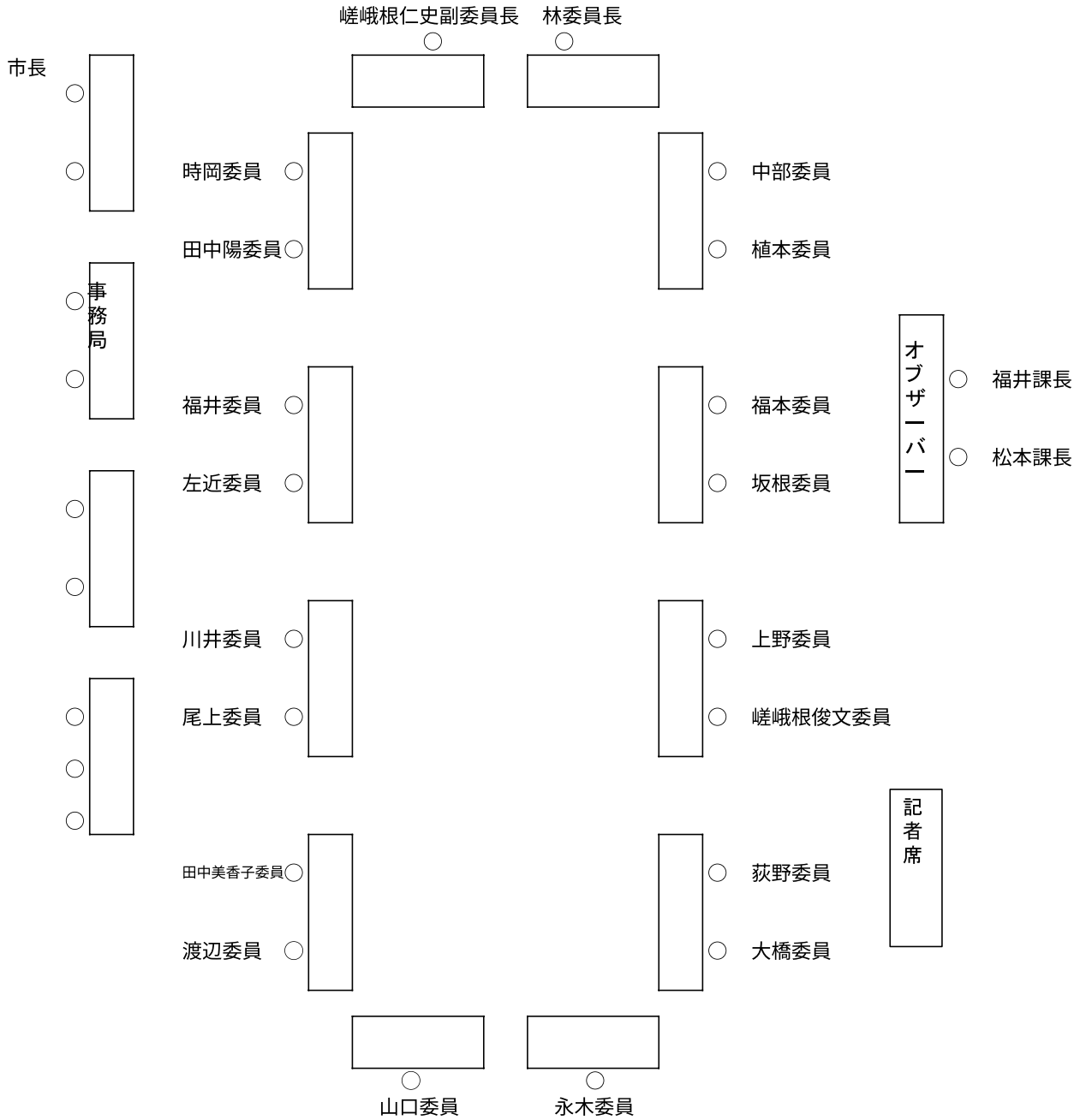
	区分	所属	役職	氏名	出欠	前回から 変更	
1	委員長	学識経験者	舞鶴工業高等専門学校	校長	林 康裕	出席	
2		学識経験者	京都職業能力開発短期大学校	校長	中部 主敬	出席	
3	副委員長	経済	舞鶴商工会議所	会頭	嵯峨根 仁史	出席	○
4		観光	京都府北部地域連携都市圏振興社	舞鶴地域本部長	植本 浩明	出席	
5		住民（地域）	舞鶴自治連・区長連協議会	会長	福本 清	出席	
6		住民（若者）	舞鶴青年会議所	理事長	坂根 一彰	出席	○
7		住民（女性）	NPO法人まいづるネットワークの会	副理事長	上野 和美	出席	
8		住民（まち）	NPO法人まちづくりサポートクラブ	副代表理事	嵯峨根 俊文	出席	
9		福祉	舞鶴市社会福祉協議会	会長	荻野 隆三	出席	
10		福祉	社会福祉法人大樹会	理事・施設長	大橋 裕子	出席	
11		子育て	舞鶴市PTA連絡協議会	会長	永木 智則	出席	
12		教育機関	舞鶴医療センター附属看護学校	教員	山口 綾	出席	
13		スポーツ	舞鶴市スポーツ協会	会長	渡辺 弘	出席	
14		文化	舞鶴市文化協会	副会長	田中 美香子	出席	
15		環境	まいづる環境市民会議	顧問	尾上 亮介	出席	
16		金融	(株) 京都銀行東舞鶴支店	東舞鶴支店長	川井 啓	出席	
17		金融	京都北都信用金庫	東舞鶴中央支店長代理	左近 美絵	出席	
18		交通	京都交通株式会社	課長	福井 尚朋	出席	
19		行政	近畿財務局舞鶴出張所	所長	田中 陽	出席	
20		言論	FMまいづる	ジェネラルマネージャー	時岡 浩二	出席	

委員 20名 うち出席者 20名

区分	所属	役職	氏名	出欠	前回から 変更
オブザーバー	京都府中丹広域振興局	地域連携・振興部 企画・連携推進課長	福井 あゆみ	出席	
オブザーバー	京都府港湾局	港湾企画課長	松本 義明	出席	

令和7年度 舞鶴市第2回総合計画審議会 座席表

舞鶴赤れんがパーク  
市政記念館ホール



出入口

傍聴席



## ○舞鶴市総合計画審議会条例

平成29年10月4日

条例第41号

## (設置)

第1条 本市における総合計画(総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想及び基本構想を実現するための実行計画をいう。以下同じ。)に関する事項を調査し、及び審議するため、舞鶴市総合計画審議会(以下「審議会」という。)を置く。

## (所掌事務)

第2条 審議会は、市長の諮問に応じ、総合計画の策定、実施その他必要な事項について、調査し、及び審議するとともに、その結果を答申する。

## (組織)

第3条 審議会は、委員20人以内をもって組織する。

## (委員)

第4条 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験を有する者
  - (2) 市内の各種団体の代表者
  - (3) その他市長が適当と認める者
- 2 委員の任期は、4年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員は、再任されることができる。
- 4 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

## (委員長及び副委員長)

第5条 審議会に委員長及び副委員長各1人を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により定める。
- 3 委員長は、会務を総理し、審議会を代表する。
- 4 副委員長は、委員のうちから委員長が指名する。

- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 審議会の会議は、委員長が招集し、会議の議長となる。

- 2 審議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(庶務)

第7条 審議会の庶務は、政策推進部において処理する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。

(任期の特例)

- 2 この条例の施行の日以後、最初に委嘱され、又は任命される委員の任期は、第4条第2項本文の規定にかかわらず、平成31年3月31日までとする。

(招集の特例)

- 3 この条例の施行の日以後最初に開かれる審議会の会議及び委員の任期満了後最初に開かれる審議会の会議は、第6条第1項の規定にかかわらず、市長が招集する。

附 則 (令和5年3月30日条例第4号)

(施行期日)

- 1 この条例は、令和5年4月1日から施行する。ただし、事項の規定は、交付の日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例の施行の際現に舞鶴市総合計画審議会の委員である者の任期は、令和5年3月31日までとする。

## 舞鶴市における審議会等の会議の公開に関する要綱

## (趣旨)

第1条 この要綱は、市政に対する市民の理解と信頼を深めるとともに、公正で開かれた市政を推進するため、審議会等の会議(以下「会議」という。)の公開に関し、必要な事項を定めるものとする。

## (定義)

第2条 この要綱において「審議会等」とは、次に掲げるものをいう。

- (1) 地方自治法(昭和22年法律第67号)第138条の4第3項の規定に基づき設置する附属機関(以下「附属機関」という。)
- (2) 行政運営上の参考とするため、市民、学識経験者等から意見聴取をすることを目的に開催する懇話会等

## (会議の公開)

第3条 会議は、公開する。ただし、会議(附属機関に係るものに限る。)が次の各号のいずれかに該当するときは、当該会議の全部又は一部を公開しないことができる。

- (1) 法令等の規定により、会議を公開することができないと認められるとき。
- (2) 舞鶴市情報公開条例(平成11年条例第31号)第5条各号に定める情報(以下「不開示情報」という。)を含む内容について審議等が行われるとき。
- (3) 会議を公開することにより、公正かつ円滑な議事運営に著しい支障が生じると認められるとき。

## (公開の方法等)

第4条 会議の公開は、会議の傍聴を希望する者に対し、審議会等の長がその傍聴を認めることにより行うものとする。

- 2 審議会等は、会議を傍聴する者(以下「傍聴者」という。)の定員をあらかじめ定め、傍聴席を設けるものとする。
- 3 審議会等は、会議が公正かつ円滑に行われるよう傍聴に係る遵守事項を定めるものとする。
- 4 審議会等は、傍聴者に対し、会議に係る資料を提供するものとする。ただし、附属機関に係る資料で不開示情報が含まれるものについては、この限りでない。

## (会議開催計画書の作成等)

第5条 審議会等を所管する課等の長(以下「所管課長」という。)は、公開の会議を開催するときは、会議を開催する日の2週間前までに、会議開催計画書(様式第1号)を作成し、総務課長に送付するものとする。ただし、緊急に会議を開催する必要が生じたときは、開催の決定後、速やかに行うものとする。

(会議開催計画の公表)

第6条 前条の会議開催計画書の内容は、会議を開催する日のおおむね1週間前までに、市の広報紙及びホームページへの掲載、市政情報コーナーへの配架等により公表するものとする。ただし、緊急に会議を開催する必要が生じたときは、この限りでない。

(会議結果報告書の作成等)

第7条 所管課長は、公開の会議を開催したときは、当該会議の終了後、速やかに会議結果報告書(様式第2号)を作成し、総務課長に送付するものとする。

(会議結果の公表)

第8条 前条の会議結果報告書の内容は、市のホームページへの掲載、市政情報コーナーへの配架等により公表するものとする。

(非公開の会議の取扱い)

第9条 所管課長は、非公開の会議を開催したときは、当該会議の終了後、可能な範囲で、その結果を公表するよう努めるものとする。

(運用状況の公表)

第10条 所管課長は、毎年度終了後、会議の公開に関する運用状況を、会議公開運用状況報告書(様式第3号)により、総務課長に報告するものとする。

2 総務課長は、前項の会議公開運用状況報告書を取りまとめ、市のホームページへの掲載等により公表するものとする。

(審議会等の概要の公表)

第11条 所管課長は、審議会等の設置等をしたとき又は既に設置等をしている審議会等の変更若しくは廃止等をしたときは、審議会等設置等(変更・廃止等)届出書(様式第4号)を作成し、総務課長に送付するものとする。

2 総務課長は、審議会等の概要を市のホームページへの掲載等により公表するものとする。

(その他)

第12条 この要綱に定めるもののほか、会議の公開に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成28年10月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和5年10月1日から施行する。





#みんなでつくる  
舞鶴2040

# 次期総合計画の進捗報告

日時: 2026年2月16日14時00分～

場所: 市政記念館ホール

小中高との連携(探求の授業等)

6月：西高、日星、白糸 9月：倉梯 10月：西高、白糸、和田 11月：東高 2月：青葉



ワークショップ

8/31、9/6 「誰もが暮らしやすいまちづくり」を考える座談会 (外国人・女性)  
 11/26 舞鶴のまちづくり井戸端会議 (市民が主役のまちづくり)  
 12/11、1/21、2/18 観光まちづくりワークショップ

ヒアリング

FMまいづる出演高校生、市内事業者 (JMU) 転勤族 (自衛隊員、配偶者)、  
 福祉事業者 (ライフステージ舞夢)

SNS等を活用した市民参加型プロジェクト

9/1~11/30 地域幸福度 (Well-Being) アンケート  
 10/1~1/31 #みんなでつくる舞鶴  
 11/1~2/28 2040年に残したい舞鶴フォトライブラリー(秋・冬コレクション) ※春・夏も実施

舞鶴市総合計画審議会

- 第1回(10/9)：取組内容やスケジュールを報告
- 第2回(2/16)：活動報告 (SNS、WSなど)、基本構想骨子案提示、意見交換
- 第3回(4月)：基本構想案の諮問
- 第4回(5月)：基本構想案の答申

フェース1

フェース2

フェース3

庁内ワーキングチーム 現状分析・未来分析

- ①関連する市の計画等の整理
- ②個別テーマごとの「課題」「2040年に想定されるリスク」「解決している姿」を議論し、「ありたい姿」案を検討

庁内ワーキングチーム・事務局 基本構想案の作成準備

- ①市民の意見を反映した「ありたい姿」等のブラッシュアップ・整理
- ②課題の重み付け (特に市民の声を聞きたい分野を整理)
- ③基本事項、将来像、視点・コンセプト、目指すべきまちの姿などの検討

事務局  
 基本構想案作成

庁内での確認

庁内ワーキング全体会議、理事者との意見交換、部長会

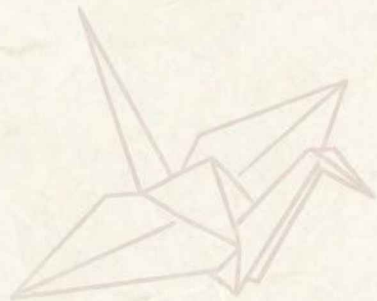


# 舞鶴市 人口レポート 2025

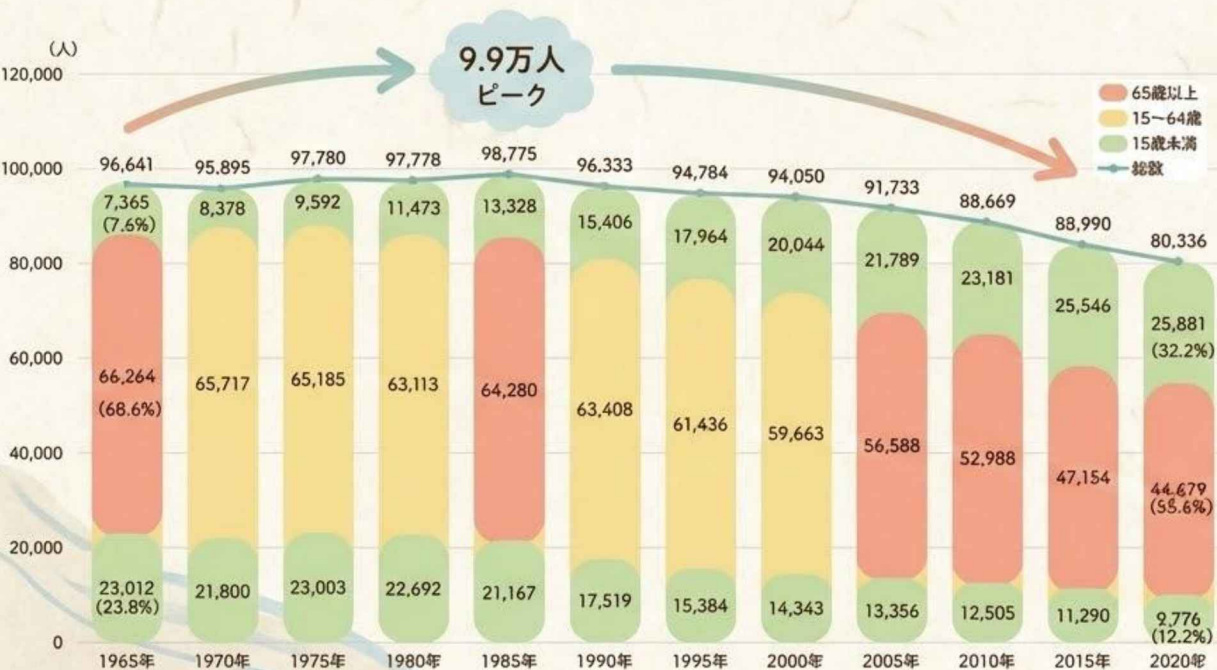
—舞鶴の「今」と「未来」をのぞいてみよう!—

令和7年作成

舞鶴市



# 舞鶴の人口、55年間の大変化！



舞鶴市の人口は、高度経済成長期から今の少子高齢社会になるまで、劇的な転換期を過ごしてきました。



グラフのポイント：1985年の約9.9万人をピークに人口は減り続け、2020年には約8.1万人になりました。



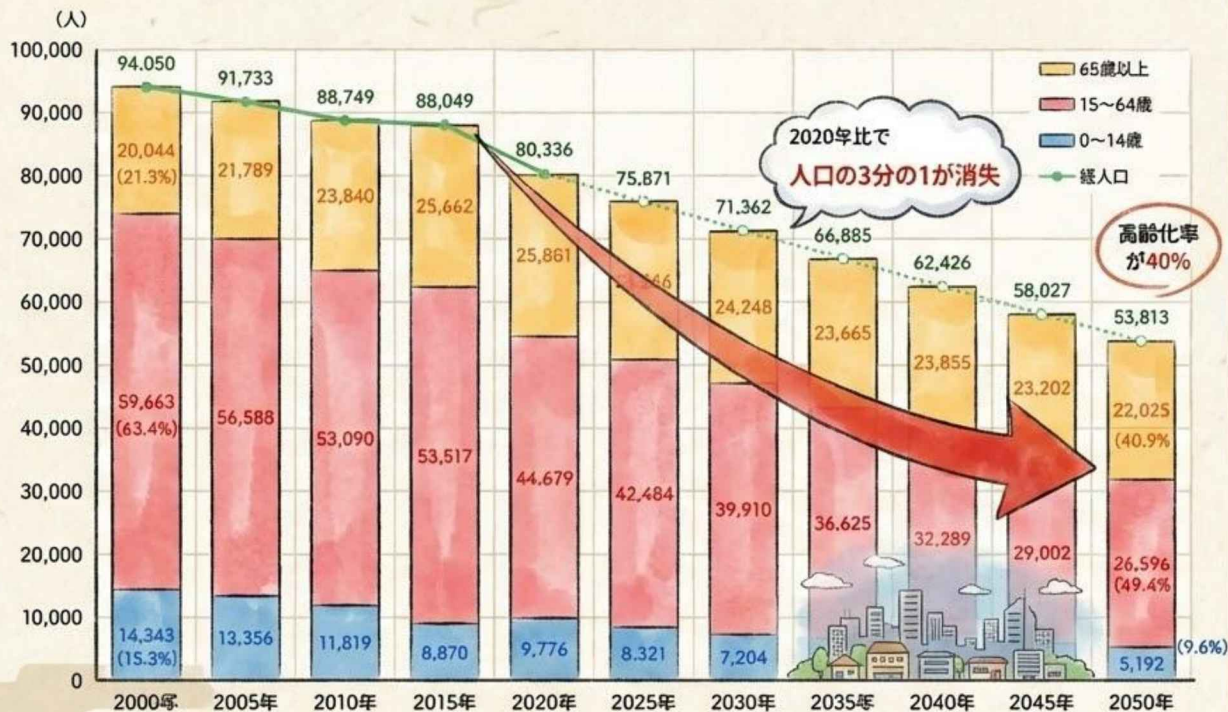
ここが重要！：55年前と比べると、子どもの数は半分に減り、逆に高齢者の数は3倍以上に増えています。



今のリアル：今では約3.2人に1人が高齢者という「超高齢社会」に突入しています。

# 衝撃！2050年には人口が3分の1消える？

このままのペースでいくと、未来の舞鶴はどうなるのでしょうか。



このままのペースでいくと、未来の舞鶴はどうなるのでしょうか。



グラフのポイント：2020年に約8万人だった人口は、2050年には約5.3万人まで減ると予想されています。

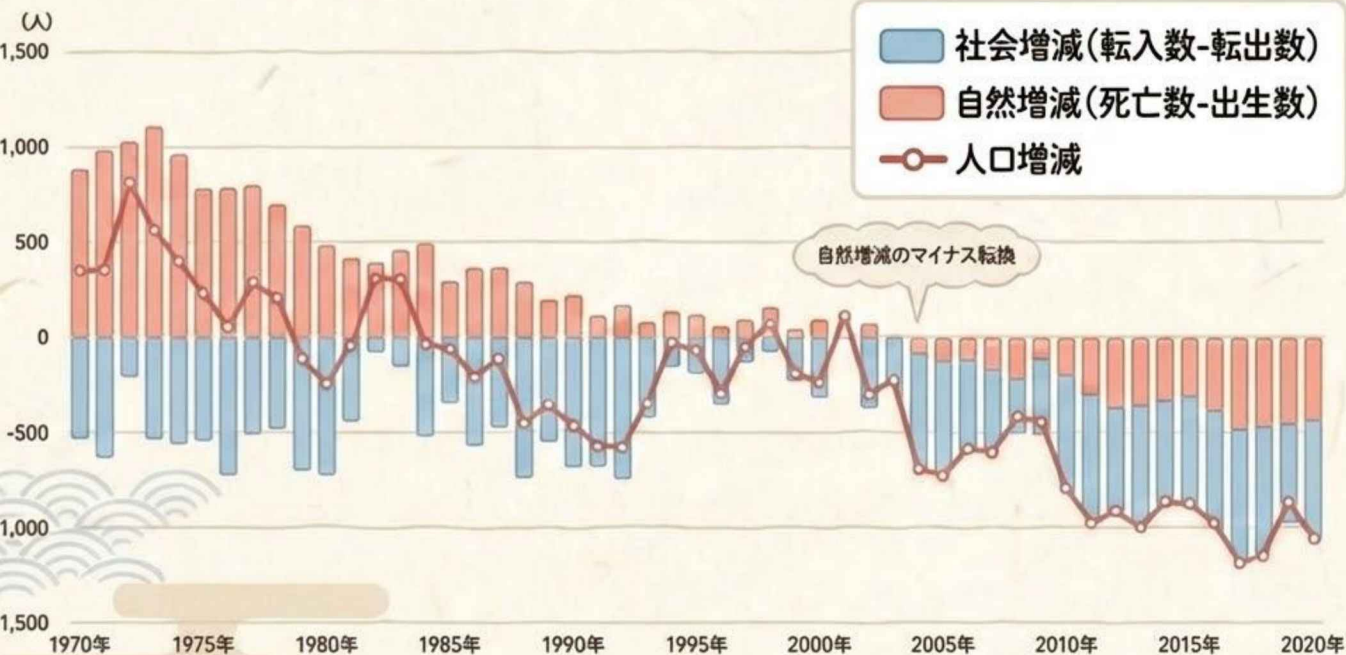


30年で3分の1：わずか30年で人口の3分の1が失われるという、非常にショッキングな予測です。



2040年問題：2040年頃には、働き手が激減し、社会を支える新たな仕組みづくりが必要です。

# なぜ人口は減っているの？「2つの要因」



人口が減る理由は、大きく分けて「自然減」と「社会減」の2つがあります。

## 自然減



2004年に初めて、亡くなる人が生まれる人を上回る「自然減」の時代に入りました。

## 社会増減



高校卒業後の進学や就職で、京阪神などの都会へ出ていく人が多い「社会減」も続いています。

## これからの課題

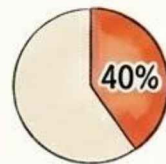


毎年約1,000人規模で人が減っている厳しい現実を、どう変えていけるかが課題です。

# 超高齢化と支え合いのピンチ



高齢者の数そのものは減り始めますが、その『中身』が深刻になります。



グラフのポイント：2020年は人口の約32%を占めていた高齢者が、2040年には約40%を超える



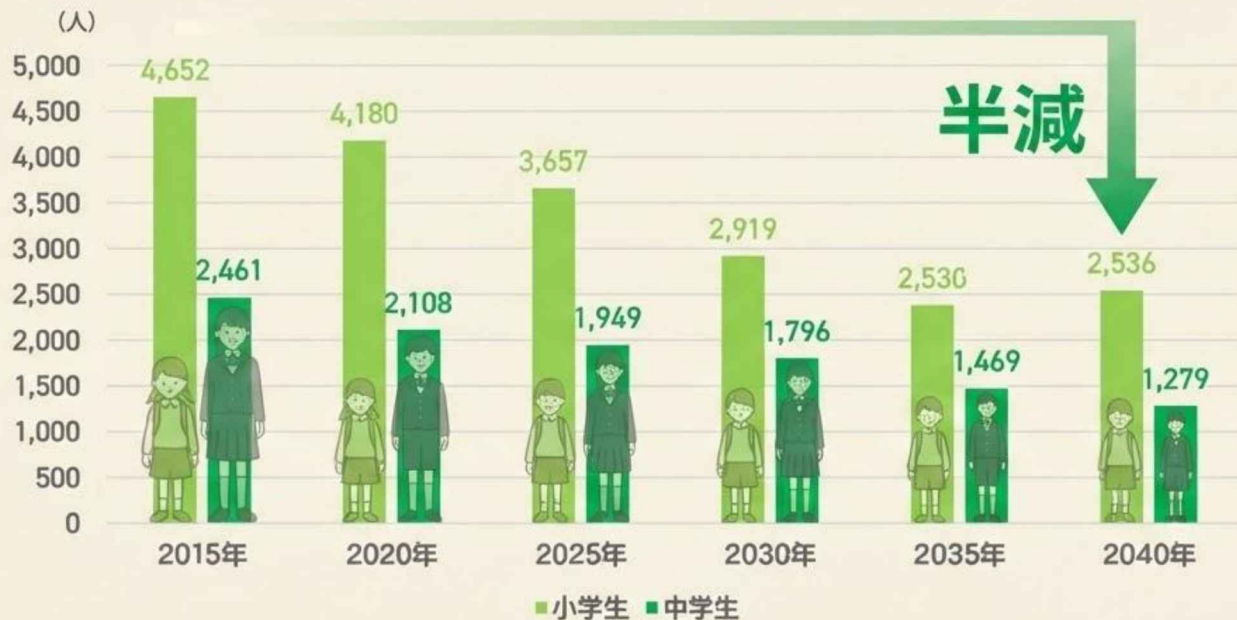
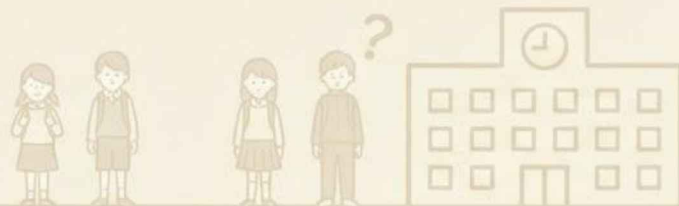
『肩車型』の社会に

1.4

1

肩車社会：2040年には1人の高齢者を約1.4人の現役世代で支える『肩車型』の社会に。

# 子どもたちが「半減」する未来



将来の子どもたちの世代にも影響が出ます。



**グラフのポイント:**2015年から2040年までの25年間で、小学生・中学生の数はほぼ半分になる予測です。



**学校生活への影響:**クラス替えができなかったり、集団の中で社会性やコミュニケーション能力を身につけられなくなったりするリスクがあります。



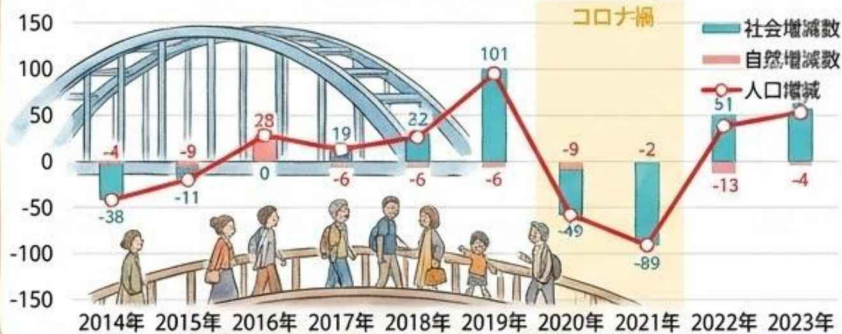
**Team舞鶴:**だからこそ、地域全体で一人ひとりを大切に育てる仕組み作りが進んでいます。



# 共に暮らす市民、外国人の動き

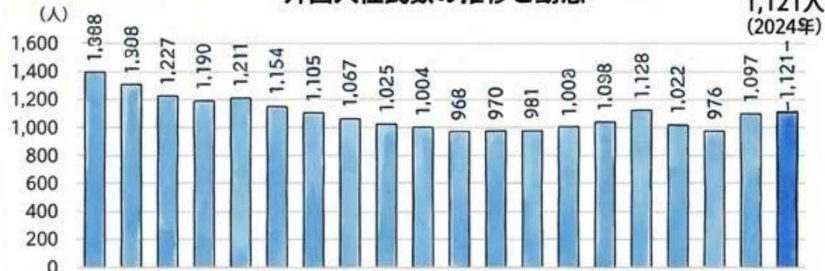
多様な文化が交錯する、舞鶴の新たな活力

外国人住民数の人口動態



2014年 2015年 2016年 2017年 2018年 2019年 2020年 2021年 2022年 2023年

外国人住民数の推移と動態



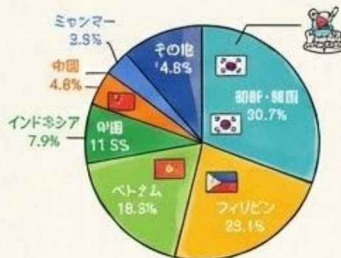
1,121人 (2024年)

グラフのポイント：2024年時点で約1,100人。コロナ禍で一時は減りましたが、また増え始めています。



国籍いろいろ：韓国、フィリピン、ベトナムなど、多岐にわたる国籍の人たちが街を支えています。

国籍別の割合 (多様な背景)



共生社会：文化の違いや言葉の壁など課題もありますが、『一緒に街を創る仲間』としての交流が大切です。

## これまでの次期総合計画策定の取組について

次期総合計画策定に向け、庁内ワーキングチームを立ち上げるとともに、市民みんなで考えるため、市民参加型プロジェクト「#みんなで作る舞鶴 2040」を実施。2040年の舞鶴の姿を同時に、いただいた市民の声を反映した形で次期総合計画の基本構想案の骨子を検討。



### 市民と一緒にって行う取組に使うロゴマーク

#### 【テーマカラー】

桜色。誰もが親しみを持ち、「新しい始まり」を連想される「桜」をモチーフにした。

#### 【ロゴ】

舞鶴を鶴に、多様な市民の意見をモザイクなカラーに見立てて、多様な市民の意見で形作った舞鶴が2040に向かって羽ばたいていく様子を表現。

#### 【ハッシュタグの言葉】

2040年の舞鶴を市民みんなで作り上げていくことを表現。

## #みんなで作る舞鶴 2040の取組について

市民みんなで2040年の舞鶴を考えることを目指し、以下のとおり様々な形で市民等が関わることができる取組を進め、述べ約2000人の市民等が参加。

### 1. ワークショップ・ヒアリングの実施

舞鶴市の「ありたい姿」やそこに向かう道筋などについて、多様な市民の声を聞く場を設け、**次期総合計画に市民の声を反映させること**を目指す。

### 2. SNS等を活用した市民参加型プロジェクトの実施

市民一人ひとりが2040年の舞鶴の姿を思い描き、また自分の想いを発信する環境等を通して、**市民みんなで2040年の舞鶴の姿を考えること**を目指す。

### 3. 学校や市民団体、まいづる親善大使等との連携

学校や市民団体、まいづる親善大使等と連携し、「**#みんなで作る舞鶴 2040**」の取組に関わる**市民を増やすこと**を目指す。

# 1. ワークショップ・ヒアリングの実施

## ワークショップ

- 8/31 9/6 「誰もが暮らしやすいまちづくり」を考える座談会
  - 第1回 第1部 (外国人が働き・暮らしやすいまち) 26名
  - 第2部 (女性が働き・暮らしやすいまち) 16名
  - 第2回 (誰もが自分らしく輝き、暮らしやすいまち) 19名
- 11/26 舞鶴のまちづくり井戸端会議 (市民が主役のまちづくり) 32名
- 12/11 1/21 観光まちづくりワークショップ
  - 第1回(現状認識、観光ポテンシャル) 17名
  - 第2回(稼ぐ観光) 16名
  - ※第3回は 2/18実施予定



## ヒアリング

- 12/4 FMまいづる出演高校生 4名
- 12/24 市内事業者 (JMU) 3名
- 1/15 転勤族(転勤族の配偶者) 8名
- 1/20 転勤族(自衛隊員) 6名
- 1/22 市内福祉事業者(ライフステージ舞夢) 3名
- ※今後も市内事業者等へのヒアリング検討中



## 2. SNS等を活用した市民参加型プロジェクトの実施

### #みんなで作る舞鶴【意見募集】

【募集時期】 令和7年 10月1日～令和8年1月 31日

- 【募集テーマ】(1)自分が市長なら、2040年こんなまちを目指したい  
 (2)自分が市長なら、2040年に向けてこんな課題に取り組む  
 (3)市民として、2040年のありたい姿とは  
 (4)市民として、2040年に向けてできることは

【回答方法】 SNS (Instagram、X、Facebook)、特設フォーム等

【応募結果】 528件

- ・SNS等 109件
- ・意見フォーム 181件
- ・広報アンケート 238件

【投稿意見の公開】

- ・舞鶴高専プログラマーズコミュニティクラブの学生が作成・運営した特設サイトで、広聴AIを活用し、ダイジェストの形で意見を公開  
 特設サイト: [「#みんなで作る舞鶴2040」プロジェクト](#)

### ①自分が市長なら、2040年こんなまちを目指したい【1/20 12:00 更新】

R2 751件

地域社会の構築に関する意見は、持続可能性や共生を重視し、特に高齢者や子供、若者の生活環境の充実が求められています。舞鶴市では医療や教育、観光資源の活用を通じた地域振興が提案され、地域活性化や人口増加に向けた具体的な施策も重要視されています。また、交通や環境の整備、世代を超えた共生社会の実現、戦争の教訓を生かす教育の重要性も強調されています。

全体 濃い意見 階層



## 2. SNS等を活用した市民参加型プロジェクトの実施

### 2040年に残したい 舞鶴フォトライブラリー **【写真募集】**

【募集時期】 令和7年 11月1日～令和8年2月 28日  
(秋・冬コレクション)

【募集テーマ】(1)2040年に残したい、伝えたい舞鶴の風景  
(2)2040年に残したい、伝えたい舞鶴の食  
(3)みんなに伝えたい舞鶴の人間国宝

【回答方法】 SNS(Instagram、X、Facebook)か特設フォーム等

【応募状況(2/2時点)】 118件

【投稿意見の公開】

- ・舞鶴高専プログラマーズコミュニティクラブの学生が作成・運営した特設サイトで、投稿写真等をフォトライブラリーとして公開
- 特設サイト：[「#みんなで作る舞鶴 2040」プロジェクト](#)

【備考】 令和8年4月1日～7月 31日 春・夏の写真募集予定

「#みんなで作る舞鶴2040」フォトライブラリー移動画面

どのジャンルに興味がありますか？そのジャンルの画面を開きます。

○舞鶴の「赤れんが倉庫」



○舞鶴の「食」



○舞鶴の「自然」(秋、冬)



○舞鶴の「海」



## 2. SNS等を活用した市民参加型プロジェクトの実施

### 地域幸福度 (Well-Being) アンケート

1. 調査目的 市民が日頃感じている「暮らしやすさ」や「幸福感 (Well-Being)」を可視化することで、舞鶴市の地域特性を把握し、これからのまちづくりに役立てるもの。

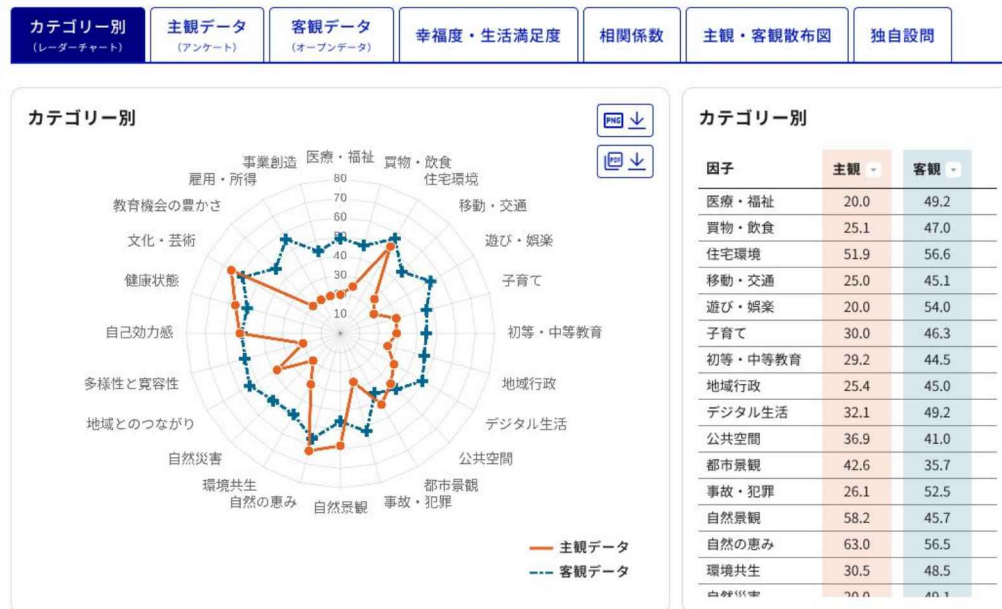
2. 調査対象 全舞鶴市民

3. 調査期間 令和7年9月1日から11月30日

4. 調査方法 WEB回答(デジタル庁が開発した自治体アンケート調査支援システムを利用)  
 ※自治会回覧板や広報まいづる9月号、メール・LINE配信、SNS配信等でアンケート調査協力の周知を実施。

5. 回答者数 304名

※デジタル庁のHP上に結果が公表されています。  
 地域幸福度 (Well-Being) 指標: [ダッシュボード](#)



### 3. 学校や市民団体、まいつる親善大使等との連携

#### 小中高との連携

探究の授業や出前講座などを通して、学生の舞鶴の未来を考える学習の支援や意見募集に対する意見を市 SNS等で動画配信等を実施

##### (1) 小学校・中学校

・白糸中学校(学習支援、SNS動画、市長発表会)

- ・和田中学校(SNS動画)
- ・青葉中学校(学習支援)
- ・倉梯小学校(学習支援)

##### (2) 高校

- ・西舞鶴高校(学習支援)
- ・東舞鶴高校(学習支援、SNS動画)
- ・日星高校(学習支援、SNS動画)



#### 舞鶴高専との連携

舞鶴高専プログラマーズコミュニティクラブの学生が「#みんなで作る舞鶴2040」の特設サイトを作成・運営

- (1) 投稿意見をもとに広聴 AIを使って市民の声を可視化
- (2) 投稿写真等をフォトライブラリーとして公開

特設サイト: [「#みんなで作る舞鶴2040」プロジェクト](#)



#### 市民団体・まいつる親善大使等との連携

市民団体、まいつる親善大使等からいただいた意見募集に対する意見を市 SNS等で動画配信等を実施



# 「Special Talk in MAIZURU #みんなで作る舞鶴 2040」

- ・カルチャー・ビジネス・エンターテインメントの各分野で  
地方から挑戦を続けてきた豪華ゲスト3名が登場。
- ・「挑戦が、街の空気を変える」をテーマに、  
2040年の舞鶴について市長と共に考える。

2月10日(火) 18:30～ 於:商工観光センター

## 【ゲスト登壇者】

- ・大崎 洋 氏(元・吉本興業ホールディングス 会長)
- ・石川 涼 氏(#FR2/VANQUISH 創業者)
- ・中野 優作 氏(株式会社BUDDICA 代表取締役)

**挑戦が、街の空気を変える。**

**GUEST 01 中野優作**  
株式会社BUDDICA 代表取締役  
前所属の中華系食品会社「BUDDICA」を創業、規模主義と徹底した情報開示、SNS・YouTubeを活用した独自の発信により、地方企業でありながら全国から支持されるビジネスモデルを確立する。  
「行動が人・経済を動かす」を信条に、地方から挑戦する経営者・若者へリアルなメッセージを発信し続けている。

**GUEST 02 大崎洋**  
元・吉本興業ホールディングス 会長  
長年にわたる吉本興業の経営を牽引し、お笑い・演劇・アート・地域事業など、エンターテインメントを通じて人材育成と地域活性化に尽力。  
全国各地で文化事業や地方創生プロジェクトに関わり、「人を見て、場を造る」ことの重要性を説いてきた。文化の力で街を変えていく、その第一人者。

**GUEST 03 石川涼**  
#FR2/VANQUISH 創業者  
ストリートカルチャーとファッションを軸に、時代の空気を感じたアングラな数多く生み出してまたクリエイティブイクター。  
SNS時代を象徴する「ラン」が研究、本職に、カルチャーが人を動かす。街をブランド化していく可能性を体現。ローカルから生まれる感性の価値を、国内外へ発信している。

地方には、まだ**可能性**がある。  
必要なのは、挑戦する人、それを受け止める街の空気。  
舞鶴からはじまる、新しいまちづくりの対話

**Special Talk in MAIZURU**  
#みんなで作る舞鶴2040

**2026.2.10(火) 18:30 START**

会場:舞鶴市総合文化会館 参加費:無料  
〒625-0036 京都府舞鶴市字浜2021 (※観覧料あり)

**PROGRAM (90分)**

01 トークセッション 03 参加者との対話  
02 クロストーク 04 次につながるメッセージ

**主催:** PLAY BACK FES. 2026実行委員会  
**共催:** 舞鶴市

**申込方法**  
は裏面をご確認ください

MAIZURU PLAY BACK FES. 2026  
WITH AN ANTI-ESTABLISHMENT SPIRIT

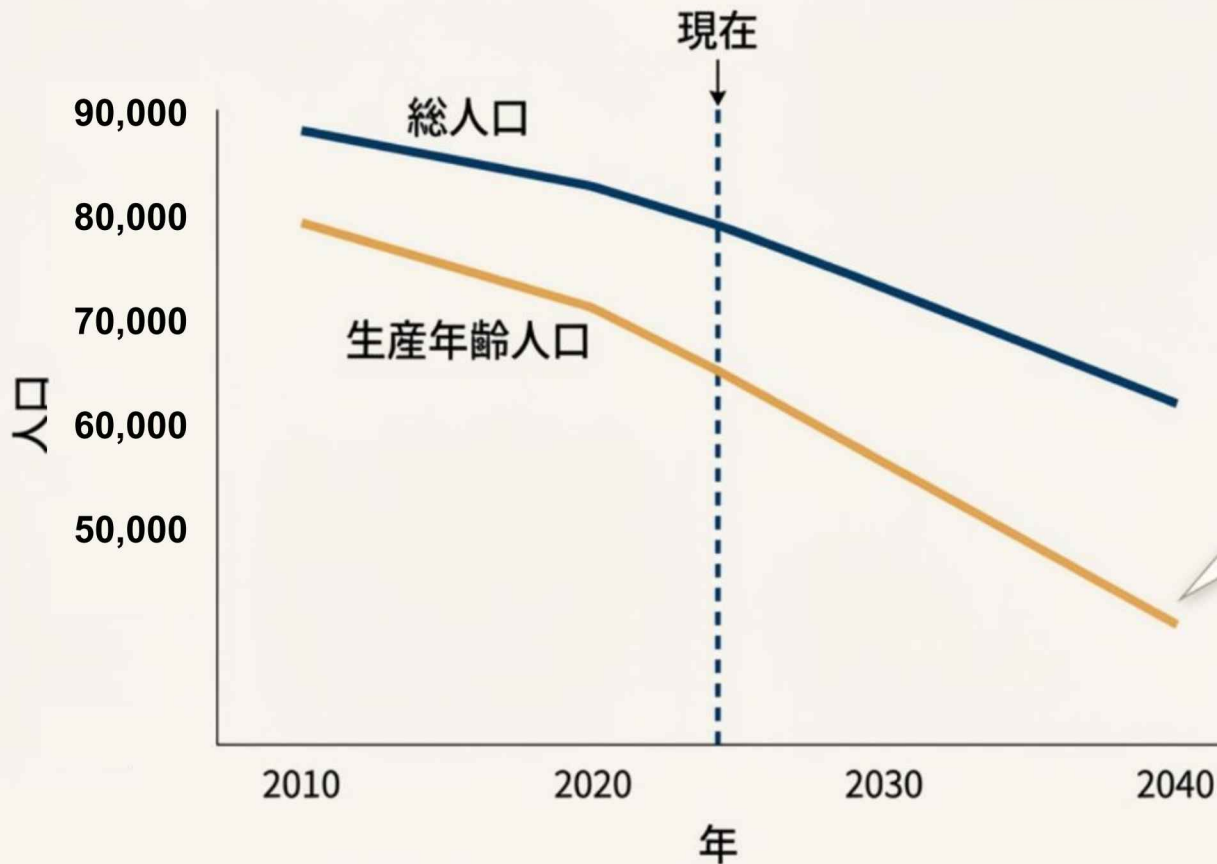
# 次期舞鶴市総合計画 基本構想（案）

未来に希望がもてる活力あるまちへ

[June, 2024]

舞鶴市

# 向き合うべき未来：これが、私たちの出発点



## 「2040年問題」

団塊ジュニア世代が65歳以上となり高齢化がピークを迎える。人口規模が縮小しても「地域活力」を維持し、力強い「地域経済」を発展させるための、今が正念場です。

2040年に向けて目指すまちの将来像

# 「未来に希望がもてる 活力あるまち舞鶴」



# 2040年、未来に希望がもてる活力あるまちへ

核となる  
キーワード



市民が誇る「人と温かいつながり(人)」、郷土を慈しむ「深い地域愛(愛)」、歴史に培われた「まちへの確かな誇り(誇り)」。

困難な時代だからこそ、私たちは舞鶴の原点に立ち返ります。

これら3つの想いを込めて、市民誰もが未来に希望を描き、

その希望と活力を次世代へと力強くつむぐ活力あるまちを実現します。

# 将来像を実現する、3つの視点



- ① 多様な【絆】が育む、  
安心と共生のくらしづくり

キーワード：安全・安心、福祉、共生、つながり



将来像

未来に希望がもてる  
活力あるまち



- ② 【誇り】を育み、  
自分らしく挑戦するひとづくり

キーワード：郷土愛、自己実現、チャレンジ



- ③ 【変化】に挑み、  
世界を魅了するまちづくり

キーワード：変化への挑戦、ブランド確立、グローバル

# ① 人・地域がつながり、未来への架け橋をつくるまち

<都市・交通・防災減災・安全・地域コミュニティ・多様性>

医療クリニック

福祉施設

福祉施設

共有生活スペース

JR 興橋

cafe

都市機能を集約した  
元気なまちづくり

自動運転

災害に強い  
強靱なインフラ

リダンダンシー機能を備えた  
安心安全なまちづくり

## ② こどもの未来と郷土愛を共に育むまち

<教育・子育て>

**Team舞鶴**  
家庭・学校・地域  
こどもを街全体で  
育てる仕組み

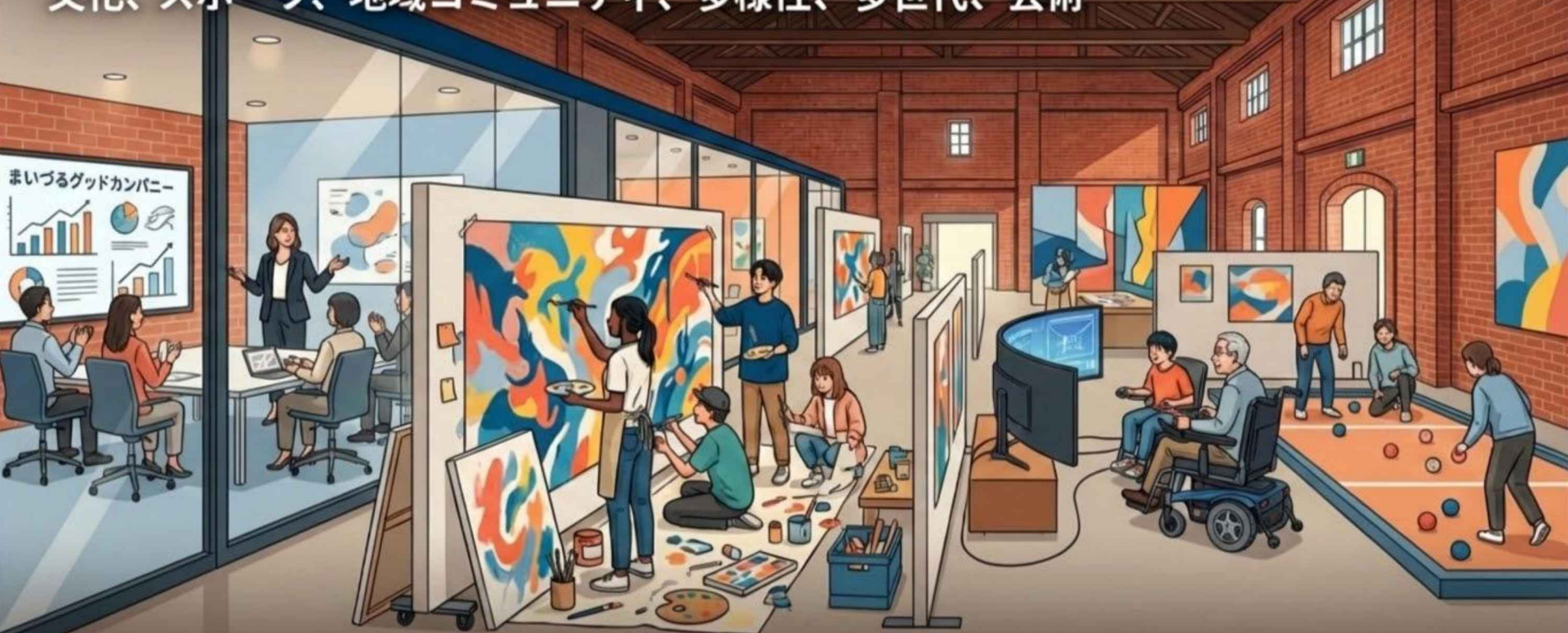
地域資源が  
最高の学び舎

多世代が交流する  
「第3の居場所」

若者が「戻りたくなる」  
郷土愛

### ③ 夢を育み、誰もが挑戦できるまち

文化、スポーツ、地域コミュニティ、多様性、多世代、芸術



ライフステージに合わせた挑戦

インクルーシブな社会

多様な価値観が力になる

文化・スポーツが日常に

# ④ 誇りと恵みが、みなぎるみなとまち

観光、経済、1次産業、産業、企業・創業支援、関係人口創出、稼ぐ



稼げるみなとまち

「舞鶴ブランド」の  
世界展開

スマート1次産業

質の高い雇用の創出

# ⑤ 心地よい暮らしが進化するまち

健康、福祉、生活環境、防災・減災、安全、地域コミュニティ、医療



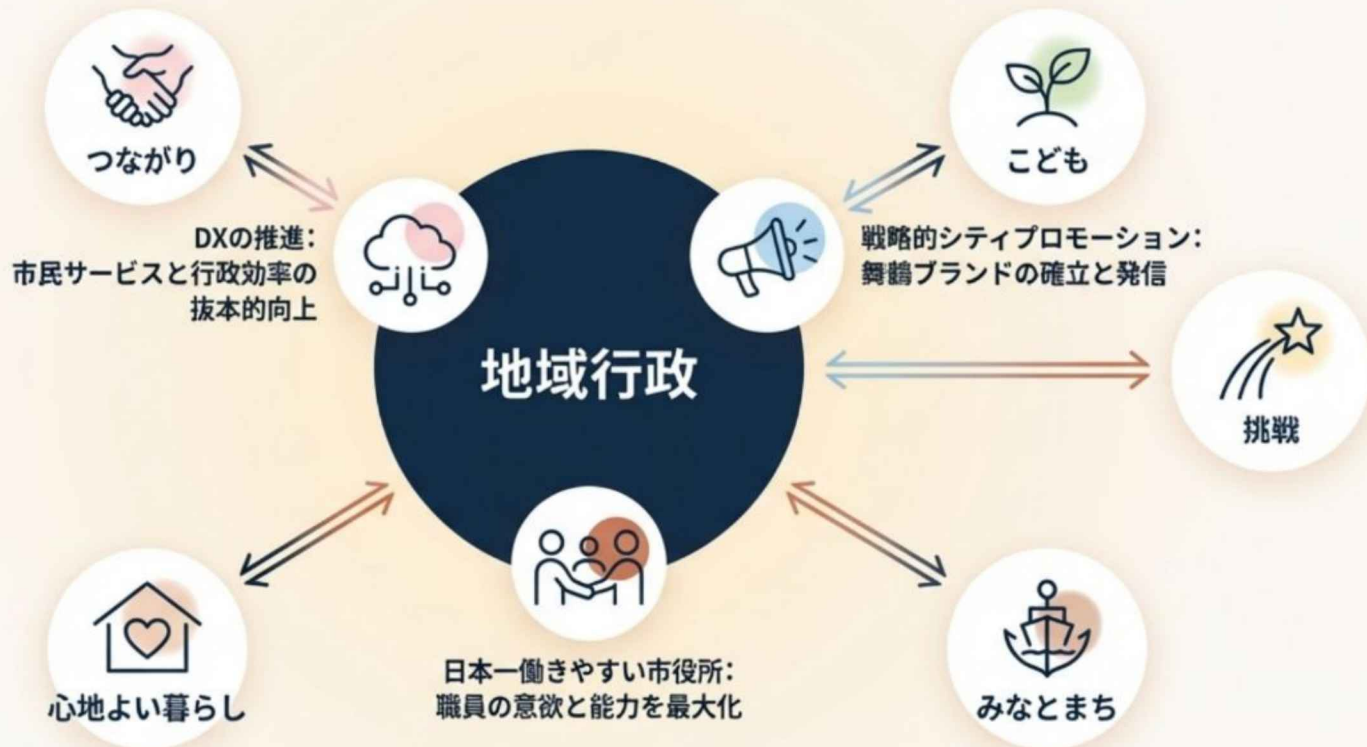
市民が主役の  
地域づくり

自分らしい  
ウェルネス

ICTで支える  
持続可能な医療・福祉

共助による  
地域防災力の向上

# すべての未来を支える、しなやかで強靱な行政運営



# 未来へつなぐ舞鶴の設計図

【2040年に向けて目指すまちの将来像】

未来に希望がもてる活力あるまち舞鶴



(核となるキーワード：人・愛・誇り)



【3つの視点】

絆

絆：多様な絆が育む、  
安心と共生の暮らしづくり

誇り

誇り：誇りを育み、  
自分らしく挑戦するひとづくり

変化

変化：変化に挑み、  
世界を魅了するまちづくり

【5つの目指すべきまちの姿】

① 人・地域がつながり、  
未来への架け橋を  
つくるまち



② こどもの未来と  
郷土愛を共に  
育むまち



③ 夢を育み、誰もが  
挑戦できるまち



④ 誇りと恵みが、  
みなぎるみなとまち



⑤ 心地よい暮らしが  
進化するまち



# #みんなで作る舞鶴2040



人口減少という大きな潮流に立ち向かい、  
「人・愛・誇り」を胸に、市民一人ひとりが  
未来に希望を描ける舞鶴へ。

2026年2月16日

次期舞鶴市総合計画（2027年4月～2040年3月）  
基本構想案骨子

舞鶴市

## 1. 計画策定の基本方針

- ・計画期間：2027年4月～2040年3月（長期的な視点での基本構想）
- ・構成の刷新：実行計画にあたる部分は解体し、総合戦略と統合した別冊を作成。別冊の取組は、ロジックモデルを活用して「めざす社会的な成果」「道筋」「評価指標」を取りまとめる。（総合戦略はアウトカム指標が必要。）
- ・推進体制：総合計画審議会とみらい戦略会議を統合した会議体で進捗報告していくことを検討。

## 2. 基本的事項

- 人口レポートに基づく、地域の未来予測（人口推移等）を踏まえる。
- 団塊ジュニア世代が65歳以上となり高齢化がピークを迎えることで顕在化する社会的・経済的な課題である「2040年問題」を見据えて取り組む。
- 人口・生産年齢人口が減少する事態を受け止めた上で、人口規模が縮小しても「地域活力」を維持し、力強い「地域経済」を発展させていく。
- 子どもたちが住みたいと思えるまち、若者が一度舞鶴を離れても戻ってきたいと思えるまちづくりを、市民が主体となり、行政と協働して進める。

## 3. 2040年に向けて目指すまちの将来像

### 「未来に希望がもてる活力あるまち舞鶴」

#### 【核となるキーワード～人・愛・誇り～】

「2040年問題」が迫る困難な時代だからこそ、私たちは舞鶴の原点に立ち返る。

舞鶴市が誇る 「人との温かいつながり（人）」

郷土を慈しむ 「深い地域愛（愛）」

歴史に培われた 「まちへの確かな誇り（誇り）」

これら3つの想いを込めて、市民誰もが未来に希望を描き、その希望と活力を次世代へと力強くつむぐ活力あるまちを実現する。

## 4. 3つの視点

将来像に向けて実施するまちづくりは、以下の3つの視点を持って取り組む。

### 1 多様な【絆】が育む、安心と共生のくらしづくり

安全・安心、福祉、共生、つながりといった要素を「絆」という言葉に集約し、性別や国籍、年齢を問わず、多様な人々が互いに認め合い、温かく支え合うことで、誰もが孤立せず、心から安心して暮らせる「温かい生活基盤」を築く。

### 2 【誇り】を育み、自分らしく挑戦するひとづくり

舞鶴の歴史や文化、自然などに対する「誇り」を土台に、一人ひとりが自分らしく未来へ向かって「挑戦」できるひとを育てる。

### 3 【変化】に挑み、世界を魅了するまちづくり

「変化」に挑み、舞鶴が持つ「赤れんが」「港」「食」などの資源を世界水準の「舞鶴ブランド」へと磨き上げ、世界中の人々を魅了し、関係人口を呼び込む、ダイナミックで開かれたまちづくりを進める。

## 5. 目指すべきまちの姿（+行政運営）

### ① 人・地域がつながり、未来への架け橋をつくるまち

範囲：都市・交通・防災減災・安全・地域コミュニティ・多様性

説明：人口減少が進む中でも、利便性と豊かさを両立する「あちこちに機能がぎゅっと集まる小さな拠点（表現は未確定）」を実現する。東西の駅周辺には医療・福祉・商業などの都市機能を選択的に集約し、それらを公共交通で結ぶ集約型都市構造を再構築することで、持続可能なまちの土台を築く。

さらに、デジタル技術（DX）と自動運転技術により、免許返納後の高齢者から次世代を担う子どもたちまで、誰もがスムーズに移動し、必要なサービスにアクセスできる環境を整える。

物理的なインフラの整備にとどまらず、ICTを活用した新たな交流プラットフォームを創出することで、性別や国籍を超えた「ゆるやかなつながり」を育む。

日本海側の重要拠点として、リダンダンシー機能を備えた「強靱なインフラ」と、地域で支え合う「共助」の力を融合させ、誰一人取り残さない、未来への希望に満ちた生活圏を創出する。

※人・情報・モビリティが流動的につながる都市空間。市民活動拠点や広場が充実し、高齢者から子どもまでが自動運転モビリティで安全・スムーズに移動し、多世代が交流する風景。災害に強い強靱なインフラが見える図を作成。

### ② こどもの未来と郷土愛を共に育むまち

範囲：教育・子育て

説明：家庭・学校・地域・行政が連携する「Team舞鶴」体制を構築し、ICTを効果的に活用し、学びの可能性を広げることで、子ども一人ひとりの個性と才能を伸ばす教育・保育環境を整備する。

豊かな海や森、食、産業など舞鶴独自の地域資源を通じた学びを深め、舞鶴への誇りと自立心を育む。

また、乳幼児から中高生、さらには大学生や若者までが、天候を問わず集まり、多様な大人と交流できる拠点を創出する。

この拠点を起点に、地域全体で多世代が見守り、共に学び合うことで、**若者が「戻ってきたい」と思える持続可能なコミュニティ形成**を推進する。

※舞鶴の豊かな自然や田舎の特徴を活かしつつ、それぞれの地域に、天候を問わず子どもを含めた誰もが自由に集い、学び合える「居場所」がある風景。地域全体で子どもたちを見守り、育てる温かい空気感と、安心して過ごせる空間が伝わる図を作成。

### ③ 夢を育み、誰もが挑戦できるまち

範囲：文化、スポーツ、地域コミュニティ、多様性、多世代、芸術

説明：性別、国籍、年齢や障がいの有無に関わらず、誰もが自己実現の機会を得られる**インクルーシブな社会**を形成する。特に若い世代や女性が子育て期だけでなく全てのライフステージにおいて、自らの能力を発揮し多様なキャリアや生き方に挑戦できる環境を整えるとともに、多様な価値観が尊重され、文化やスポーツが生活の一部となっている。

※リノベーションされた歴史的建造物や市民ホールなどで、多様な世代・国籍の人がアート制作、スポーツ、文化イベントに熱中している風景。高齢者や障がい者も生きがいを持って社会参加している様子が描かれる。創造性があふれる活気ある空間の図を作成。

### ④ 誇りと恵みが、みなぎるみなとまち

範囲：観光、経済、1次産業、多様性、産業、企業・創業支援、関係人口創出、稼ぐ

説明：舞鶴が誇る、**豊富な地域資源（海軍遺産、自然、海、港、食など）**を「舞鶴ブランド」として磨き上げ、日本海側の拠点港である「京都舞鶴港」を核として国際観光・ビジネス・交流が活発化し、世界に通用するブランド力を持つ「稼げるみなとまち」として物流拠点・国際観光・ビジネス拠点を形成する。

一次産業では、AIやICTを活用した「スマート農業・漁業」を実装し、高付加価値化と安定生産を実現することで、若者が夢を持って就業できる「稼げる一次産業」としての環境を整え、さらに、既存産業のDX推進やスタートアップ支援を強化し、「質の高い雇用」を創出することで、**若者が進学等で一度離れても「戻ってきたい」と思える活気ある経済圏**を構築する。

※舞鶴港に大型クルーズ船が停泊し、観光客で賑わう風景。漁港ではスマート漁業が導入され、新鮮な海産物が活気ある市場に並ぶ。先進的な技術を持つ企業が集積するビジネスエリアと、歴史的景観が調和している図を作成。

⑤ 心地よい暮らしが進化するまち

範囲：健康、福祉、生活環境、防災・減災、安全、地域コミュニティ、医療

説明：市民がつながり、主体的に地域づくりに関わることで自分たちの住むまちの魅力を行政とともに市民自らが高めていく。そして、ニーズに即した各種サービス提供体制の構築（医療機関の機能分化・連携等）により**医療・福祉・生活支援**を充実させ、誰もが住み慣れた地域でいきいきと自分らしく、安心した暮らしが継続でき、さらに、インフラの強靱化とあわせ、ICTを活用した迅速な情報伝達や地域ぐるみの「**共助**」による防災力等を向上し、災害に強く、子どもから高齢者までが心から安心を実感できる生活環境を創出する。

※市街地と自然が調和した環境の中で、市民がそれぞれのライフスタイルに合わせて、健康アプリを活用したウォーキング、コミュニティスポーツ、自然体験など、自分らしい健康生活を楽しんでいる風景。地域の実情に応じた医療・福祉サービスがICT等でスムーズに提供され、多世代が安心して暮らしている図を作成。

横断的な柱：地域行政（DX、シティプロモーション、日本一働きやすい市役所）

# #みんなで作る舞鶴2040 取組結果まとめ

- ・ワークショップ・ヒアリング結果
- ・SNS等を活用した市民参加型プロジェクト結果



# ワークショップ・ヒアリング結果



# 「誰もが暮らしやすいまちづくり」を考える座談会



第1回 課題を見つける  
第1部「外国人が働き・暮らしやすいまち」  
第2部「女性が働き・暮らしやすいまち」

第2回 「ありたい姿」を考える  
「誰もが自分らしく輝き、暮らしやすいまち」とは？

日 時:

第1回 2025年8月31日(日)

第2回 2025年9月6日(土)

場 所:西公民館

参加者:

第1回第1部(外国人)26名

第2部(女性) 16名

第2回 19名



# 「外国人が働き・暮らしやすいまち」～課題～

※(●)は重要度を表しています。

<p><b>1. 交通機関・住居</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・交通手段が少なく、公共交通が不便 (バス本数の少なさ、ICカード未対応)(●)</li><li>・車社会で移動手段が限られる</li><li>・外国人はアパートを借りにくく、保証人問題が壁になっている</li></ul>	<p><b>6. コミュニケーション・交流</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・偏見・差別、疎外感、孤立感が強く出ている</li><li>・相談相手・交流の場が少なく「仕事と家の往復だけ」になりがち</li><li>・コーディネーターや支援者が不足</li><li>・多言語対応が不十分、日本語・方言の壁</li><li>・「やさしい日本語」での情報提供が不足</li><li>・SNSやニュースなど、外国人向けの情報発信が不足</li></ul>
<p><b>2. 食に関する課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・食材調達の難しさ(特にハラル食・母国料理)</li><li>・販売場所や飲食店の少なさ(ハラル食等)</li><li>・物価が高く、買い物もづらい</li></ul>	<p><b>7. 手続き・サービス</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・病院での対応や通訳不足(大きな課題)</li><li>・市役所や銀行の手続きが難しい／口座開設・送金が困難</li><li>・情報がわかりにくく、伝達不足</li><li>・在留資格や技能実習制度に関する不安</li></ul>
<p><b>3. 宗教に関する課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・モスクや祈りの場がない／祈りの時間を取れない</li><li>・宗教上の習慣に対する理解不足</li></ul>	<p><b>8. 教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・子どもの教育機会への不安 (学校との関係、インターナショナルスクール希望など)</li><li>・日本語教育の場が少ない(●)</li><li>・教育方針の違い</li></ul>
<p><b>4. 仕事・職場</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・コミュニケーションの壁、職場の人間関係の難しさ、偏見が大きな問題</li><li>・言語不足、舞鶴弁・専門用語の理解不足</li><li>・賃金や労働条件の不公平感、長時間労働</li><li>・転職やキャリアアップの難しさ</li><li>・日本の職場文化や習慣に馴染みにくい</li></ul>	<p><b>9. その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・雪や寒さなど気候の違い</li><li>・MIA(舞鶴国際交流協会)の場所がわかりにくく目立たない</li></ul>
<p><b>5. 地域・ご近所ルール</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ゴミ出しルールの複雑さと頻度の少なさ(●)</li><li>・回覧板や自治会ルールがわかりにくい</li><li>・地域の偏見や「外国人一括り」での扱い</li><li>・地域コミュニティに入りづらく孤立しやすい</li></ul>	

## すぐできそうなこと

### ■市民が主体

- ・相談できる人を増やす
- ・町内会で外国人住民と交流する
- ・居心地よい場づくり・日本人と話す場所を増やす
- ・各町内に民生委員のような人を設置
- ・国際交流の機会を増やす

### ■その他(企業等)が主体

- ・優しい日本語を使う
- ・目的型交流サロンの設立(地域の未利用スペース活用)
- ・交流の場を持つ
- ・誰でも受け入れる職場をつくる
- ・多言語QR対応ガイド
- ・外国人ネットワークSNSの設置
- ・共に学ぶ環境をつくる
- ・日本人を学ぶチャンスをつくる(●×2)
- ・啓発

### ■行政が主体(舞鶴市)

- ・デジタル化マニュアルの作成
- ・市民に(外国人が)困っていることを知ってもらう
- ・外国人向けLINEなどでの情報発信
- ・労働状況の把握調査
- ・家主の理解促進
- ・SNS活用(●×3)
- ・ふりがな対応
- ・市HPの多言語化
- ・暮らしのガイドブックをHPでダウンロード可能に
- ・職場の悩みを相談できる窓口の設置

## 中期的に取り組むこと

### ■市民が主体

- ・共に学ぶ環境をつくる(●)
- ・日本人を学ぶチャンスをつくる(●×2)

### ■その他(企業等)が主体

- ・啓発活動

## じっくり温めたいこと

### ■市民が主体

- ・ハラル料理が食べられる場所を増やす(●×2)
- ・送金の仕方を紹介する
- ・外国人用の窓口設置
- ・日本語学校をつくる
- ・学習の場を増やす
- ・日本語レベル別クラスをつくる

### ■その他(企業等)が主体

- ・宗教上の理解

### ■行政が主体(舞鶴市)

- ・日本人並みの賃金保証のルール化(●)
- ・配偶者を呼ぶための支援
- ・技能実習生の転職を可能にする仕組み
- ・公的保証人制度の構築(●)
- ・ゴミ出しルールの見直し
- ・外国人センターの設立と支援の中心化
- ・バスを増やす

1.子育て世代	2.年配層	3.若手層
<p><b>■仕事と子育ての両立が困難</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てをしやすい職場がない(●×2)</li> <li>・キャリアの相談先がない(●×4)</li> <li>・時短・育休制度があっても使えない風土(●×3)</li> <li>・仕事を休むのはいつも女性(●×4)</li> <li>・介護や子育てで有給が消費されリフレッシュできない(●×4)</li> <li>・子育てや女性特有の体・メンタルの問題への理解不足</li> <li>・男性(夫)は育休・休暇を取りづらい風土</li> </ul> <p><b>■環境の制約</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供を預ける場所や相談先が少ない</li> <li>・車が複数ないと生活が厳しい</li> <li>・公共交通が使いづらい</li> <li>・行政の手続きや情報伝達が複雑(●×4)</li> </ul>	<p><b>■価値観の固定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男性中心の社会・発言力</li> <li>・男女の役割分担(家事・育児は女性という考え)</li> <li>・新しいことを受け入れにくい風土(前例主義)</li> <li>・子育ての負担が女性に偏る(●×2)</li> </ul> <p><b>■生活面</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度医療の不足</li> <li>・遊びや文化的な楽しみが少ない</li> </ul>	<p><b>■雇用と待遇</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給料が低い/男女格差(●×3)</li> <li>・転職やキャリアの見通しが立たない</li> </ul> <p><b>■ライフスタイル</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自由な働き方を望む(在宅ワーク、柔軟な選択肢)</li> <li>・孤独感(人との付き合いの希薄さ)</li> <li>・公共交通が不便、車依存(●×2)</li> </ul> <p><b>■学びの機会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職(大人)になってから学べる場が少ない</li> </ul>

1. 自然や健康には恵まれているが、医療・交通・雇用などの生活基盤に不満が集中
2. 子育て世代の働き方・休暇制度に関する課題が深刻(制度はあるが使えない、女性負担の偏り)
3. 固定的な性別役割と古い価値観が、若手や女性のキャリア・生き方を制約
4. 行政サービスやインフラの不足が、日常生活に直結する不満を生んでいる

## すぐできそうなこと

### ■市民が主体

- ・おしゃれでゆったり過ごせる、知り合いに合わない場所
- ・周りの目を気にしない自由な場所
- ・おしゃれなカフェ
- ・しゃべれる場所(空き店舗の活用)
- ・育児(場所):病気の子を預かれる場所
- ・育児(人的):保育園送迎を頼める人
- ・インスタでの情報収集
- ・世代に応じた発信
- ・育児・介護(場所):気軽に相談できる場所
- ・子どもも家事に参加
- ・母(妻)の意識改革
- ・新米パパ・ママはマークをつける(●×4)
- ・デスクに退勤時刻グラフを設置
- ・経営側とスタッフの話し合い(●)
- ・社員の意見や想いを聞き、環境を整える
- ・会社内で人材育成のシステムづくり
- ・若手育成(●)

### ■その他(企業等)が主体

- ・気軽に必要な物のシェア
- ・カーシェア
- ・女性が「何もしない日」を作る
- ・早帰りDAY制度
- ・女性経営者やリーダーの人権に関する再学習の義務化
- ・介護をしている人がつながれる場
- ・サロン(介護)
- ・介護(ルール):企業内で育休を推進
- ・介護(人的):家庭支援の人材派遣
- ・経営者が制度を学ぶ機会をつくる(●×2)
- ・同業他社を見学(子育てに理解ある会社)
- ・結婚・出産して暮らしやすいイメージを持てる研修
- ・相談役に女性がいる体制(●)
- ・働く女性の意見交換の場(●)

### ■行政が主体(舞鶴市)

- ・広報まいづるの充実(若者向け情報発信)
- ・子育て応援を対企業の取組に入れる
- ・経営者人権学習の再義務化
- ・介護サロン、介護支援ルール・人材派遣
- ・手続きコンシェルジュ(AI活用、過去データ蓄積)(●×4)
- ・女性が安心して相談できるワンストップ窓口
- ・運用ルールの見直し(使いにくい制度)

## じっくり温めたいこと

### ■市民が主体

- ・ウーバーイーツのような仕組み
- ・介護(場所):施設増加
- ・夫の戦力をもっと向上
- ・夫の育休に対する本気度や仕事バランスの課題を改善
- ・対話の場づくり(社内ファシリテーター)
- ・子どもや家庭に合わせた柔軟な出勤
- ・チームで複数業務を担当
- ・産休・育休取得者の周囲支援を手厚く(時間給・有給拡充)
- ・子連れ出勤OK

### ■その他(企業等)が主体

- ・介護(ルール):有給の介護休暇
- ・婚活/介護・家事代行のマッチング(●×2)
- ・シニア人材の掘り起こし(ファミサポ協力者)
- ・シニアの活用(サクッと手伝えるマッチング)(●×4)
- ・育休取得を「当たり前」に、不取得のみ申請方式

### ■行政が主体(舞鶴市)

- ・空き家活用(児童館)(●)
- ・廃業ホテル・旅館を子育て広場や子ども食堂に活用

# 舞鶴のまちづくり井戸端会議 —ちょっといいことの輪を広げよう—



市民が主役のまちづくりに向けて「どうすればまちづくりにワクワクできる人が増えるのか？」をテーマに、市民参加が増える理由と減る理由を議論。

日時:2025年11月26日(水)

場所:中総合会館

参加者:32名  
(NPO活動や市民活動参加者等)



# 市民参加が増える理由

※(●)は重要度を表しています。

<p><b>1. やりがい・喜び</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・子供たちの笑顔が見れる</li><li>・子ども達との交流が増える (●×1)</li><li>・人の役に立つ喜び (●×3)</li><li>・やりがいがある (●×2)</li><li>・知らない人が興味をもってくれた (●×1)</li><li>・考えてくれる人が増えた (●×1)</li><li>・にぎわいがみんなの喜びに繋がる</li><li>・自分がやれば誰かはついてきてくれる</li><li>・気軽にあいさつできる</li><li>・熱い人がいる (●×2)</li><li>・結果がでると協力も増える</li><li>・出逢うのが嬉しい (●×1)</li><li>・他人に喜んでもらうと嬉しい (●×1)</li></ul>	<p><b>2. 成長・発見</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・人からの後押しがもらえる</li><li>・知らない事から視野が広がる</li><li>・興味あるモノとの出会い</li><li>・自分の成長を実感できる (●×2)</li><li>・人脈の広がり (●×1)</li><li>・子供達との活動と一緒に成長できる (●×1)</li><li>・人の意見を受け入れる</li><li>・誰が来てもいい雰囲気</li><li>・ボランティアさんの強みを活かす (●×1)</li><li>・新しい発見がある</li><li>・教え教わる実践ができる</li><li>・部下指導のヒントが得られる</li><li>・ボランティアの興味・関心を増やす</li></ul>	<p><b>3. 楽しみ</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・活動していて自分が楽しい！ (●×1)</li><li>・おいしい食べ物があるコト (●×2)</li><li>・楽しい・嬉しいなどプラスのメリットがある</li><li>・やってよかったと思える楽しさ (●×2)</li><li>・物事がジブンゴトになったとき (●×4)</li><li>・おもしろそう！と思えるものがある (●×2)</li><li>・思ったこと・願ったことが実現するのはおもしろい</li><li>・やりたいこと、楽しいことをやる (●×1)</li></ul>
<p><b>4. つながり</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・つながりが増える・友達が増える</li><li>・世代間交流を通して刺激をもらえる</li><li>・相談できる人がいる (●×1)</li><li>・つながりが広がると楽しい (●×2)</li><li>・前向きな人と逢うことが増えた</li><li>・自分の身近な人に関係(家族、友達)</li><li>・知り合いに誘われたとき、さらにつながりが増えていく (●×1)</li></ul>	<p><b>5. 感謝</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・感謝されると次もやろうというやりがいにつながる (●×2)</li><li>・市民さんの便利な生活の役に立てた</li><li>・自分がいち市民だと実感できた</li><li>・感謝 (●×2)</li><li>・ありがたいなあと思うことが増えた</li></ul>	<p><b>6. 発信力・広報</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・それぞれの市民活動の周知 (●×4)</li><li>・イベントが増えた</li><li>・子どもの声をボランティアさんに届ける工夫</li><li>・関心をもたせる</li><li>・SNSの活用</li></ul>
<p><b>7. 機会</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・集まれる場(機会)がある (●×1)</li></ul>	<p><b>8. 資金</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・参加費が貰えること (●×4)</li></ul>	

## 市民参加が増える理由(主な参加者コメント)

※(●)は重要度を表しています。

1. **キーマンの存在**：活動を行っていく中で、一人でもキーマンとなるような熱い人がいると動きやすくなるし、周りがついていく。
2. **体験と共感**：子どもたちとの交流や協力してみんなで活動することで、共通のやりがいを感じ、みんなで楽しめる。
3. **新しい出会い**：活動を通じてまたそこからの新しい出会いや共感につながっていき、輪が広がっていく。
4. **主体性と楽しさ**：自分たちは「ボランティア」をしているつもりはない。自分が楽しいから自主的に市民活動を行っている。
5. **恩返しの精神**：子どもたちのために行う活動はやりがいが大きく、自分たちもしてきてもらったので恩返しをしたいと思う人が多いため、盛り上がりやすい。
6. **周囲への伝播**：最初は嫌だと思ってもまずは「楽しい」と周りに言うことで、自分も楽しかったと思えるようになり、それが周りに伝播して「〇〇さんがいるなら行くよ」と言ってもらえるようになった。
7. **押し活の感覚**：地域の魅力を伝えるために、まずは自分が地域に飛び込むことが重要。「押し活」をするような感覚で魅力を面白おかしく伝えていると学生も興味を持ってくれる。
8. **宣言による巻き込み**：やりたいことを色々な人に宣言しておくことで実現していった経験がある。
9. **お役立ち感の創出**：活動しようと思う人達が「誰かの役に立てる」「お役立ち感」をより感じる事ができれば、その活動が居場所になっていき自然と継続できる。

# 市民参加が減る理由

※(●)は重要度を表しています。

<p><b><u>1. 広報・周知の難しさ</u></b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・活動自体の知名度が低い</li><li>・全体のPR方法(●2)</li><li>・知ってもらう機会がない</li><li>・広報ができていない</li><li>・つながる場所がわからない(●×1)</li><li>・SNSの普及(●×2)</li><li>・人を集めるのが難しい(●×3)</li></ul>	<p><b><u>2. 人材不足</u></b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・土日が多忙(習い事?)</li><li>・人員不足で活動に参加しにくい</li><li>・少子高齢化</li><li>・大人(指導者)が減り思った活動ができない(●×1)</li><li>・青少年団体とのつながりがりがない</li><li>・プラスαするための人手が足りない(●×2)</li><li>・SNSの普及(SNSが若者の居場所になっている)(●×2)</li><li>・高齢化により活動量が減る(●×2)</li><li>・若者の加入が全く無い</li></ul>	<p><b><u>3. 固定化・人間関係・世代間ギャップ</u></b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・活動メンバーが固定(●1)</li><li>・固定メンバーのため入りづらい</li><li>・人間関係がめんどうさい(●×1)</li><li>・コミュニティができていると入りづらい</li><li>・ひとりで参加しにくい内容のとき</li><li>・世代間で意見の食い違いが生じる(●×1)</li><li>・それぞれ目標とする部分が異なる事が多く、統一が困難(●2)</li></ul>
<p><b><u>4. 他人事</u></b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・大変だと思っている</li><li>・めんどくさい</li><li>・近所付き合い</li><li>・ボランティアだと思われる</li><li>・興味が持てない(●×2)</li><li>・自分のことで精一杯(●×1)</li><li>・周りのことを考える余裕がないとき</li></ul>	<p><b><u>5. トラブル・クレーム</u></b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・変化することに苦言があった(●×2)</li><li>・親がマイナスなことを言う</li><li>・しかられる・しれない</li><li>・子ども同士のトラブル</li><li>・近隣住民からのクレーム</li></ul>	<p><b><u>6. 義務感・押し付け</u></b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・義務感・マンネリ</li><li>・ボランティア(自主性)ではなく押し付け(●×1)</li><li>・役の押し付け合い(●×1)</li></ul>
<p><b><u>7. 資金</u></b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・物価高・お金の心配(●×4)</li><li>・公的なスタートアップの補助がない</li><li>・無償の活動</li></ul>	<p><b><u>8. 舞鶴の課題・移動</u></b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・知名度が低い(●×1)</li><li>・西と東(●×1)</li><li>・物理的な距離がある(●×1)</li></ul>	<p><b><u>9. はじめの一步</u></b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・勇気が出ない(●×1)</li><li>・ハードルが高い</li></ul>

## 市民参加が減る理由(主な参加者コメント)

※(●)は重要度を表しています。

- 1. 周囲のネガティブな反応:** 活動を行っていく中で、変化することに苦言があったり、クレームが入ったりすることがある。また、親がマイナスなことを言うのも要因となる。
- 2. PRの難しさ:** ただ単純にPRするだけでは効果がなく、工夫して行う必要がある。また、周知ができていなかったり、活動自体が知られていないことも多い。
- 3. 固定化と高齢化:** どうしてもメンバーが固定されてしまい、高齢化も問題となっている。古い考えや固定化したやり方を行っているケースが多い。
- 4. 「ボランティア」のイメージ:** 周りから見たら「ボランティア」は大変だと思われる。
- 5. 資金面の不安:** 「ボランティアから始めてみよう」という入口は大切だが、それだけで継続していくことは難しく、どうしても活動資金が必要である。

## その他(主な参加者コメント)

- 1. 活動団体間連携不足:** 舞鶴には様々なコミュニティがあるが、情報共有できる場所や気軽に集まる機会がなく、案外他のコミュニティの活動を知らない。活動団体や活動内容を HPをやSNSで広く周知すべき。活動団体がお互いを知れる仕組みがあるとよい。
- 2. 高齢者の活躍:** 熱意があって元気な高齢者も多く、もっと高齢者が活躍する仕組みがあってもいい。

# 観光まちづくりワークショップ

(現時点の取りまとめは第1回まで)



- 第1回 現状認識、観光ポテンシャル
- 第2回 稼ぐ観光
- 第3回 舞鶴観光が目指すべき方向性

日時:

第1回 2025年12月11日(水)

第2回 2026年1月21日(水)

第3回 2026年2月18日(水) 予定

場所: コワーケーションビルレッジ舞鶴  
(赤れんがパーク3号棟2階)

参加者(宿泊、飲食、遊覧船運航事業者等):

第1回 17名

第2回 16名

第3回 名



# 現状認識・観光ポテンシャル

## 1. 舞鶴観光の「リアルな姿」と「変化」

- **SNSの力:** TikTokに注力した結果、フォロワーが1.4万人を超え、北海道や沖縄など遠方から「お店を目的に」来る客が増えている。「舞鶴に来る理由」を店舗側で作ることが重要。
- **インバウンドの動き:** ウィラー社による台湾でのプロモーション等の影響から、西舞鶴エリアでは、スーツケースを持った外国人が街歩きを楽しむ姿が目立ってきている。
- **客層の偏り:** 遊覧船などは高齢層が中心で、10代・20代の若年層やインバウンド客の取り込みがまだ少ない。
- **移動手段の偏り・公共交通の不便さ:** ホテル利用者の多くは自家用車やレンタカーであり、公共交通機関を利用する観光客は少数派である。引揚記念館へ行きたい客は多いが、バスの本数が少ない。鉄道から引揚記念館への二次交通が不便。

## 2. 「なぜ舞鶴に来たか」「何にお金を使ったか」

- **リフレッシュ目的:** 古民家やゲストハウスの宿泊客は、「何もしない時間」や「田舎の風景」を楽しみに来ている。
- **推し活需要:** 若年層の間では、映画のロケ地巡り(聖地巡礼)が目的となっており、関連グッズや写真撮影にお金を使っている。
- **海軍・グルメ:** 高齢層には、依然として「海軍ゆかりの地」や「海軍カレー」が根強い人気を誇っている。
- **経由地としての利用:** インバウンド客の中には、伊根や美山へ行く際の「中継地点」として舞鶴に宿泊するケースも多い。

## 3. 「また来たい」を阻害している要因・課題

- **移動の壁(二次交通):** 引揚記念館へ行きたくても、バスの本数が少なく午後の便がないため、訪問を諦めてしまう機会損失が起きている。
- **情報の壁:** 映画ロケ地などの魅力的な資源が十分に知られていない。また、情報が分散していて検索しにくい。InstagramやWebサイトなど、入り口は違って最終的に必要な情報にたどり着ける統合的な動線が必要。
- **案内の欠如:** 東舞鶴駅に観光案内所がないため、駅に降りた直後の案内機能が不足している。
- **質の向上:** 満足度を高めるためには、ガイドのプロ化(有償化)や、街なかで歴史を体感できるQRコード設置など、ガイドがいなくても楽しめる仕掛けが必要である。

# FMまいづる出演高校生ヒアリング



FMまいづるの「10代・20代 舞鶴未来対談」や高校生が企画・運営するイベント「KARAYAB」に参加する高校生に、舞鶴の現状や舞鶴の未来の姿などヒアリングを実施。

日 時:2025年12月4日(木)

場 所:西市民プラザ

参加者:4名



# FMまいづる「舞鶴未来対談」出演高校生ヒアリング結果

## 現状：舞鶴の魅力や課題等

1. **2つの異なる歴史：**東舞鶴と西舞鶴、それぞれ異なる歴史と雰囲気があるのが面白い。
2. **若者の居場所のなさ：**「遊ぶ場所(カラオケやモール)」がなく、放課後の選択肢が少ない。バンド活動の場など、学生が主役になる場所がない。
3. **交通の利便性の欠如：**公共交通機関(バス・電車)の便が悪く、自由な移動が制限されている。
4. **学生の外部連携の不足：**学校では、進学を重視する雰囲気があり、地域との連携活動がなく、学生の活動範囲が学校内で完結しがちで、地域への愛着やUターン志向が薄れる原因になっている。また、地元企業の接点もなく、地元企業への意識は希薄。
5. **若者の活動のバックアップ不足：**(KARAYABの活動について、)学生だけでは企業への協賛金集めは非常に厳しい。市や大人の「バックアップ」がなく、活動の信頼が得られていない。

## 未来：若者が戻りたくなるまちへ

～「何もないから出る」から「やりたいことがあるから帰る」へ～

1. **「人」と「機会」：**舞鶴にワイワイ交流できる「仲間」や活動を共にする「人」の繋がりがあることや、一時的でも帰ってきて活動したり、仲間と集まったりできる「機会(イベントや交流の機会)」の提供が必要。多少の不便さは気にしない。
2. **表現の場の創出：**若者が「表に立てる舞台」となるライブやイベントなどがほしい。
3. **学生同士の交流：**学生の視野を広げるためには、学校の枠を超えて、市内全域の高校生が繋がる仕組みが不可欠。(例：中学校の生徒会交流のようなもの)
4. **外部との接点増加：**高校生が外部の人と繋がる機会を増やし、地域活動への参加を促進する必要がある。
5. **学生活動への支援：**大人世代に学生の自発的な地域活動(例：「KARAYAB」など)を信用してもらうため、市などに公的に支援してほしい。
6. **老後の懸念：**長期的には、高齢化に伴う車の運転不可などを考えると、公共交通機関などの不備は懸念。

# 市内事業者(JMU)ヒアリング



市内事業者(ジャパン マリンユナイテッド株式会社舞鶴事業所)に、事業所の採用の現状や今後の事業展開、舞鶴の未来の姿などヒアリングを実施。

日 時:2025年12月24日(水)

場 所:JMU舞鶴事業所内

参加者:3名



# 市内事業者(JMU)ヒアリング結果

## 1. 採用と人材育成の現状

- **地元採用の推進**：高校卒業者の採用は近年は計画未達だったが、来春は計画通りの採用を見込む。  
意見：市内事業者・市が連携し「舞鶴で働く魅力」をより強く発信してはどうか。
- **事業運営**：社員200名体制で、協力会社の力も借りながら艦艇等の修理事業を主軸に事業を推進。
- **教育方法の変革**：若手社員向けに**動画コンテンツを活用**するなど、より体系的で分かりやすく進化。

## 2. 女性・多様な人材の活躍に向けた環境整備

- **女性が働きやすい職場へ**：女性社員の意見を反映し、トイレ・作業環境の改善を推進。
- **ロールモデルの発信**：女性の活躍事例を積極的に発信し、ロールモデルを創出。
- **外国人採用**：協力会社などでの外国人材の受け入れについて議論がスタート。

## 3. 地域・学校との連携強化

- **小中学校生を対象としたキャリア教育**：地域の子供たちが地元基幹産業に触れるキャリア教育に積極参加。
- **地元高校と連携した学び**：地元高校(校舎)が幅広い学びが可能な「総合学科」のような特色を持ちつつ、企業と連携した**地域課題解決型学習(PBL)**など地元定着につながる学びの拠点となることに期待。

## 4. 未来に向けた「舞鶴ブランド」の構築

- **技術開発の拠点化**：貯木場跡地などを活用し、**水中ドローンや造船 DX**といったスタートアップ企業が実験できる場を作るなど、全国から注目される「尖った」まちづくりに期待。
- **経済戦略の強化**：国の「地域未来戦略」とも連動し、海・造船・防衛産業といった舞鶴の強みを活かした経済活性化に期待。

# 転勤族の配偶者ヒアリング(てんつま CAFE)



てんつまCAFEに参加する自衛隊等の転勤により舞鶴へ移住した配偶者を対象に、現在の暮らしの満足度や課題、2040年の舞鶴に望む姿についてヒアリングを実施。

日 時:2026年1月15日(木)

場 所:中総合会館(フラス舞鶴)

参加者:8名



## 転勤族の配偶者ヒアリング結果

### 現状：舞鶴の魅力や暮らしの課題等

1. **人のあたたかさ**と**住みやすさ**：当初は不安や「田舎」という印象を持っていたが、実際に住んでみると町中などで声をかけてもらえるなど人があたたかく、「住みやすい」と感じる人が多い。
2. **子育て環境の充実**：公園や子育てひろば、「あそびあむ」などの施設が充実している点を高く評価。「あそびあむ」は土日も利用できる点が高評価ポイント。
3. **医療・交通インフラへの不安**：小児科の少なさや病院の待ち時間の長さが課題。また、車がないと不便で、公共交通（バス）の少なさも課題。
4. **情報の入手方法**：子育てアプリ「まいココ」やインスタなどのSNS、ママ友同士の口コミが主な情報源。
5. **仕事と家庭の両立**：在宅ワークやフルリモートへの意向がある一方、乳幼児がいる家庭では学習や仕事の時間の確保が困難。
6. **見知らぬ土地での交流の機会**：てんつまCAFEなどを通して、知り合いがいない土地で、同じ境遇（自衛官の妻など）の人と出会い、悩みを共有できる場が大きな精神的支えになっており、行政による交流の機会提供を高く評価。

### 未来：ずっと住み続けたいくなるまちへ

1. **教育の選択肢とサポート**：子どもが成長した際、教育面でも充実したまちを希望。例えば、高校などの選択肢が少なく、市外への通学費補助など、舞鶴に住みながら学べる仕組みなどがあると良い。
2. **商業施設の充実**：ショッピングモールやコストコなど、大人も中高生、子どもも楽しめる、飽きのこない遊び場や買い物の場の創出を期待。
3. **東西の機能維持**：生活圏内（東西それぞれ）に図書館含め必要な施設を維持してほしい。
4. **スキルの活用と可視化**：デジタルマーケティング等の講座に関心はあるが、「学んだ先でどう活躍できるか」という具体的な出口が見えることが受講の動機付けに必要。

# 転勤族(自衛隊員)ヒアリング



転勤を伴う海上自衛隊員の中で家族帯同の方と単身赴任の方を対象に、現在の暮らしの満足度や課題、2040年の舞鶴に望む姿についてヒアリングを実施。

日 時:2026年1月20日(火)

場 所:舞鶴地方総監部

参加者:6名(家族帯同者3名、単身赴任者3名)



# 転勤族(自衛隊員)ヒアリング結果

## 現状：舞鶴の魅力や暮らしの課題等

1. **交通アクセスの課題**：都市部への移動にかかる時間とコスト(特急料金)の高さ、市内移動における公共交通(タクシー・バス)の不足と自家用車必須の環境が課題。特に、単身赴任者は車を持ってきておらず、不便。
2. **商業施設と「居場所」の不足**：単身赴任者は、休日に一人でゆっくり過ごせる場所(ネットカフェ、Wi-Fi・ドリンクバー完備のファミレス等)の欠如を切実に感じている。家族帯同者は、買い回りが一箇所で済む大型商業施設(イオンモール等)や、安心感のあるチェーン店の不足を感じている。
3. **生活ルールのストレス**：他都市と比較して、ゴミ分別の煩雑さや回収頻度の少なさ(特に不燃ごみ)が、生活上の大きなストレス。直接搬入は、車の問題や手数料があるため利用していない。
4. **娯楽と自然の評価**：キャンプ場の安さや魚介類の美味しさは魅力だが、近隣で地魚が手に入りにくい点や「観光地価格」への不満がある。映画館等の娯楽施設が小規模で、子供や若者が遊ぶ場所が少ない。
5. **地域コミュニティとの距離**：転勤族であるため地域との深い関わりを求めない層もいるが、関心があっても接点の入口や情報の入手方法がわからず参加できないケースも多い。
6. **住居の選択**：家を建てる場所として、妻の実家の近くを選択するケースが多い。また、子どもが小さい頃からお世話になっているかかりつけ医のいるまちで家を建てるケースも見られた。

## 未来：ずっと住み続けたいなるまちへ

1. **「居場所」と利便性の確保**：佐世保や横須賀のように、基地と街が近く、徒歩圏内で生活や余暇が完結するまちづくりを希望。図書館や公共施設にWi-Fiやカフェ機能を整備し、単身者等が長時間滞在できる「居場所」の創出を期待。
2. **定住へのインセンティブ**：退官後の定住先が決まっていない方の定住を促すには、佐世保市のような任期制自衛官移住定住支援助成金など有効。また、将来子供や親族が帰省しやすい交通アクセスの改善も定住判断の鍵。
3. **教育環境と選択肢の拡充**：子供が成長した際の高校教育の選択肢の少なさ(京都市内等との比較)への懸念がある。所得連動だけでなく、必要な世帯への公平な教育費支援が必要。
4. **情報発信と自然な交流**：転入時に地域活動やサークルの情報が届く仕組み(プッシュ型通知やチラシ配布)が必要。防災訓練のような形式的なものではなく、スポーツやイベント準備などを通じた、市民と隊員が自然に交流できる機会の創出を期待。制服での登下校見守り活動など、自衛隊員を身近に感じてもらう機会も良い。
5. **大型商業施設と滞在空間の創出**：イオンモールやゆめタウンのような、一箇所で買い物完備し、フードコート等で長時間滞在できる大型施設の誘致を強く希望。
6. **公園のアップデート**：アスレチック遊具など、高学年でも楽しめる公園の整備を希望。

# 転勤族(自衛隊員)と転勤族の配偶者ヒアリング比較

	転勤族(自衛隊員)	転勤族の配偶者
第一印象	「何もない」「都市部から遠い」といった <b>物理的な不便さ</b> が先行。	「場所を調べて絶望した」など、未知の土地への <b>心理的不安</b> が強い。
舞鶴の魅力	<b>趣味と実益</b> : 安いキャンプ場、美味しい魚。職場と住居が近いこと。	<b>人のあたたかさ</b> : 知らない人が声をかけてくれる、荷物を運んでくれる優しさ。
子育て・教育環境	<b>ハード面への要望</b> : もっと大きい遊具のある公園。 <b>教育環境への不安</b> : 高校教育の選択肢の少なさを懸念。公平な教育費支援も希望。	<b>ソフト面への評価</b> : 子育てひろば、「あそびあむ」などの施設が充実し、スタッフが親切。 <b>教育環境への不安</b> : 高校教育の選択肢の少なさを懸念。市外への通学費補助など、舞鶴に住みながら学べる仕組みに期待。
生活の不満	<b>都市機能の欠如</b> : ネットカフェなど一人になれる時間の場所がない。ゴミの分別が複雑で回収が少ない。	<b>専門インフラの不足</b> : 小児科が少なく待ち時間が長い。夜間や急な産気づいた時のタクシー不安。
買い物・娯楽	<b>チェーン店の安心感</b> : 丸亀製麺や焼肉きんぐが欲しい。一箇所でも長時間滞在できる大型モールを希望。	<b>利便性の向上</b> : ショッピングモールやコストコなど、大人も中高生、子どもも楽しめる、飽きのこない遊び場や買い物の場の創出を希望。
地域との関わり	<b>情報の欠如</b> : 自治会や地域の情報が届かない。地域との関わりを求めない層もいるが、市民と隊員が自然に交流できる機会の創出を期待。	<b>つながりの希求</b> : 知り合いがいない不安を「てんつまCAFE」等の交流の場で解消につながっており、交流の場を希望。
定住への考え	<b>否定的(現実路線)</b> : 退職後の仕事がない。交通の便が悪く、老後が不安。	<b>条件付きで肯定的</b> : 実家に近い、または子育てや仕事の条件が揃えば住み続けたい。

# 市内福祉事業者(ライフ・ステージ舞夢) ヒアリング



市内福祉事業者(ライフ・ステージ舞夢)に、事業所の人材確保や生産性向上に向けた取組状況、地域連携、福祉現場の未来の姿などヒアリングを実施。

日 時:2026年1月22日(木)

場 所:ライフ・ステージ舞夢

参加者:3名



# 市内福祉事業者(ライフ・ステージ舞夢) ヒアリング結果

## 1. 現状: 経営の厳しさと地域コミュニティの変容

- **運営の現状と使命:** 加佐のセーフティネットとして役割を担っているが、少子化・遠隔地コスト・物価高騰で経営は限界。
- **気候の影響:** 積雪による当日キャンセル等の食材費が施設負担となり、物価高騰も相まって経営を圧迫。
- **地域交流の衰退:** かつては川船レースなど交流が盛んであったが、コロナ禍以降は地域体力が低下。現在は施設の秋祭り等を通じて接点を作っているが、交流維持には行政の支援が必要。

## 2. 人材確保: 深刻な不足と外国人材の活用

- **若手人材の不足:** 新卒・若手人材が「全く足りてない」深刻な状況。以前は法人全体で20名程度の内定者があったが、現在は施設1名程度。
- **外国人材:** 約20年前から受け入れ、現在は全スタッフ81名の1割以上(10名)がフィリピン人スタッフ。20年以上の経験を持つフィリピン人リーダーが新人の育成・指導を担う体制を構築。
- **働く環境の刷新:** 制服デザインの刷新や業務の細分化(介護助手へ業務のタスクシフト)など、働きたくなる工夫を実施。

## 3. DXとAIの活用: 生産性向上と課題

- **導入状況:** 全室に「眠りスキャン」を導入し、夜間の巡回負担軽減や事故検証に活用。在宅サービスではタブレットを活用し、現場での記録・共有により生産性が向上。
- **インフラの障壁:** 中山間地域特有の「電波が届かない場所」があることが、モバイル端末活用の大きな障壁。
- **今後の期待:** 自動翻訳機や「人間洗濯機」のような介護負担を軽減する技術、リスクヘッジのための見守り機器の導入を検討。

## 4. 未来: 地域連携と持続可能な体制

- **共同化の推進:** バックオフィス機能(事務・採用等)のシェアリングや、地域の食材を活用した「セントラルキッチン」構想、外国人材の共同受け入れなど、事業者間連携による効率化を期待。
- **横の連携(多世代交流):** 職員の子どもの地域で預かる保育連携など、働きやすさ向上に期待。
- **行政へのリーダーシップ期待:** 地域力が弱まる中、行政には事業者間や地域との「まとめ役(コーディネーター)」としての役割を期待。
- **老朽化・電気代対策:** 施設の老朽化に伴う修繕費高騰や、オール電化施設ゆえの電気代高騰が深刻であり、省エネ設備更新への補助金支援が必要。

# SNS等を活用した 市民参加型プロジェクト結果



# (1) #みんなで作る舞鶴(意見募集)

【募集時期】 令和7年10月1日～令和8年1月31日

- 【募集テーマ】(1)自分が市長なら、2040年こんなまちを目指したい  
(2)自分が市長なら、2040年に向けてこんな課題に取り組む  
(3)市民として、2040年のありたい姿とは  
(4)市民として、2040年に向けてできることとは

【回答方法】 SNS(Instagram、X、Facebook)、特設フォーム等

【応募結果】 528件

- ・SNS等 109件
- ・意見フォーム 181件
- ・広報アンケート 238件

【投稿意見の公開】

- ・舞鶴高専プログラマーズコミュニティクラブの学生が作成・運営した特設サイトで、  
広聴AIを活用し、ダイジェストの形で意見を公開

特設サイト:[「#みんなで作る舞鶴2040」プロジェクト](#)



【市SNS等での動画配信】

- ・学生や市民団体、まいづる親善大使等と連携し、動画や写真等で寄せいただいた意見を  
市公式SNSやyoutubeで配信

【今後のスケジュール】

R8. 2月16日 総計審で報告

R8. 3月頃 意見を参考に基本構想案作成  
(実行計画内でも検討)



## (2) 2040年に残したい舞鶴フォトライブラリー(写真募集)

【募集時期】 令和7年11月1日～令和8年2月28日(秋・冬コレクション)

【募集テーマ】(1)2040年に残したい、伝えたい舞鶴の風景

(2)2040年に残したい、伝えたい舞鶴の食

(3)みんなに伝えたい舞鶴の人間国宝

【回答方法】 SNS(Instagram、X、Facebook)か特設フォーム等

【募集状況(2/2時点)】 118件

【投稿意見の公開】

・舞鶴高専プログラマーズコミュニティクラブの学生が作成・運営した特設サイトで、  
投稿写真等をフォトライブラリーとして公開

特設サイト:[「#みんなで作る舞鶴2040」プロジェクト](#)



【スケジュール】

R8. 4月1日～7月31日 春・夏の写真募集

R8. 夏頃～ 投稿写真を使ったアート作品検討

R9. 1月～ アート作成

R9. 3月 完成イベント



# 令和7年度舞鶴市地域幸福度 (Well-being)アンケート結果

令和8年2月作成

舞鶴市



# 1. 基本情報

## 調査概要

1. 調査目的 市民が日頃感じている「暮らしやすさ」や「幸福感(Well-Being)」を可視化することで、舞鶴市の地域特性を把握し、これからのまちづくりに役立てるもの。
2. 調査対象 全舞鶴市民
3. 調査期間 令和7年9月1日から11月30日
4. 調査方法 WEB回答（デジタル庁が開発した自治体アンケート調査支援システムを利用）  
※自治会回覧板や広報まいづる9月号、メール・LINE配信、SNS配信等でアンケート調査協力の周知を実施。

※デジタル庁のHP上に結果が公表されています。

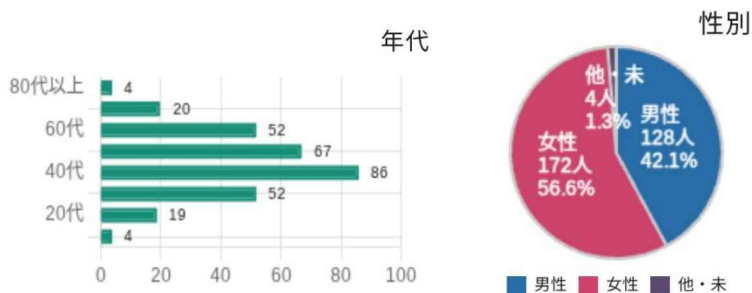
地域幸福度（Well-Being）指標：<https://well-being.digital.go.jp/>

## 舞鶴市概要

人口	73,705人(2025.12)
都市の特徴・ 周辺地域との 関わり	<ul style="list-style-type: none"><li>・城下町・商港から発展した西地区、海軍の軍港から発展した東地区の2つの性格の異なる市街地をもつ</li><li>・海上自衛隊・海上保安庁の2つの拠点が所在する唯一の都市</li><li>・北海道フェリーや国際貨物、国際クルーズが発着する「京都の玄関口」</li><li>・京都府北部7市町で広域連携を推進</li></ul>
将来像	未来に希望がもてる活力あるまち・舞鶴

## アンケート回答者

◆回答者数：304名



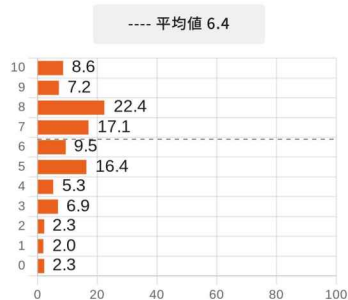
# 2. 舞鶴市民の幸福度・生活満足度

## 幸福度・生活満足度

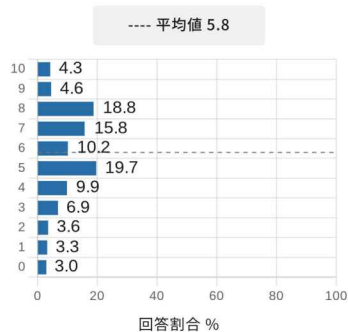
◆幸福度：6.4（全国平均：約6.5）

◆生活満足度：5.8（全国平均：約6.5）

幸福度

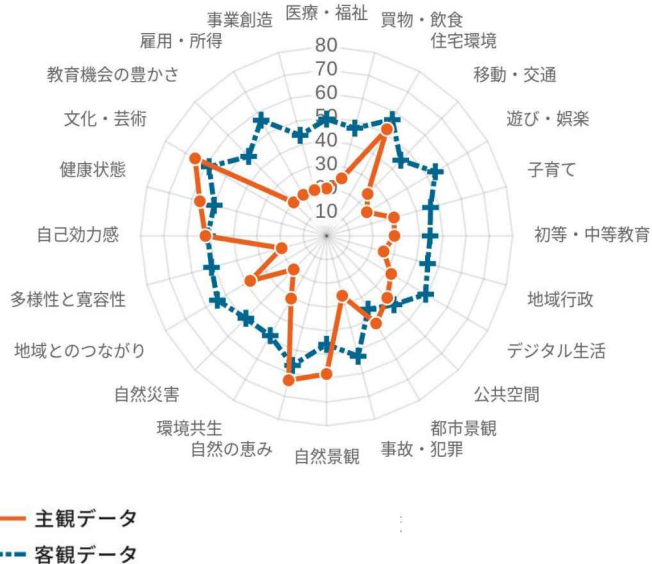


生活満足度



【出典】2025年度版(令和7年度版) Well-Being 個別調査

## カテゴリー別



【出典】2025年度版(令和7年度版) Well-Being 個別調査

主観データ：市民が回答したアンケート結果をもとにした「幸福感(Well-being)」を測定したもの

客観データ：各種オープンデータ等をもとにした「暮らしやすさ」を測定したもの

因子	主観	客観
医療・福祉	20	49.2
買物・飲食	25.1	47
住宅環境	51.9	56.6
移動・交通	25	45.1
遊び・娯楽	20	54
子育て	30	46.3
初等・中等教育	29.2	44.5
地域行政	25.4	45
デジタル生活	32.1	49.2
公共空間	36.9	41
都市景観	42.6	35.7
事故・犯罪	26.1	52.5
自然景観	58.2	45.7
自然の恵み	63	56.5
環境共生	30.5	48.5
自然災害	20	49.1
地域とのつながり	37.9	54.2
多様性と寛容性	20	51.2
自己効力感	52.1	51.2
健康状態	56.4	50
文化・芸術	65.3	58.3
教育機会の豊かさ	20	47.4
雇用・所得	20	56.3
事業創造	20	43.9

# 3. 舞鶴市民の幸福度に関するSWOT分析

	T(脅威) 客観的評価低	O(機会) 客観的評価高
S(強み) 主観的 評価高	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然景観</li> </ul> <p>客観的な数値は低い が、市民の満足度が 高い<b>独自の価値があ る</b>カテゴリー</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住宅環境</li> <li>・ 自然の恵み</li> <li>・ 自己効力感</li> <li>・ 健康状態</li> <li>・ 文化・芸術</li> </ul> <p>客観的な数値も市民 の満足度も高い<b>維持 すべき</b>カテゴリー</p>
W(弱み) 主観的 評価低	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療・福祉</li> <li>・ 買物・飲料</li> <li>・ 移動・交通</li> <li>・ 子育て</li> <li>・ 初等・中等教育</li> <li>・ 地域行政</li> <li>・ デジタル生活</li> <li>・ 公共空間</li> <li>・ 都市景観</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境共生</li> <li>・ 自然災害</li> <li>・ 教育機会の豊かさ</li> <li>・ 事業創造</li> </ul> <p>客観的な数値も市民 の満足度も低い<b>優先 的な対策が求められ る</b>カテゴリー</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遊び・娯楽</li> <li>・ 事故・犯罪</li> <li>・ 地域とのつながり</li> <li>・ 多様性と寛容性</li> <li>・ 雇用・所得</li> </ul> <p>客観的な数値は高い が、市民の満足度が 低い<b>改善の伸び代が ある</b>カテゴリー</p>

# 3. 舞鶴市民の幸福度に関するSWOT分析

【SO:主観も客観も 50以上】

因子	主観	客観
医療・福祉	20	49.2
買物・飲食	25.1	47
住宅環境	51.9	56.6
移動・交通	25	45.1
遊び・娯楽	20	54
子育て	30	46.3
初等・中等教育	29.2	44.5
地域行政	25.4	45
デジタル生活	32.1	49.2
公共空間	36.9	41
都市景観	42.6	35.7
事故・犯罪	26.1	52.5
自然景観	58.2	45.7
自然の恵み	63	56.5
環境共生	30.5	48.5
自然災害	20	49.1
地域とのつながり	37.9	54.2
多様性と寛容性	20	51.2
自己効力感	52.1	51.2
健康状態	56.4	50
文化・芸術	65.3	58.3
教育機会の豊かさ	20	47.4
雇用・所得	20	56.3
事業創造	20	43.9

【ST:主観 50以上・客観 50未満】

因子	主観	客観
医療・福祉	20	49.2
買物・飲食	25.1	47
住宅環境	51.9	56.6
移動・交通	25	45.1
遊び・娯楽	20	54
子育て	30	46.3
初等・中等教育	29.2	44.5
地域行政	25.4	45
デジタル生活	32.1	49.2
公共空間	36.9	41
都市景観	42.6	35.7
事故・犯罪	26.1	52.5
自然景観	58.2	45.7
自然の恵み	63	56.5
環境共生	30.5	48.5
自然災害	20	49.1
地域とのつながり	37.9	54.2
多様性と寛容性	20	51.2
自己効力感	52.1	51.2
健康状態	56.4	50
文化・芸術	65.3	58.3
教育機会の豊かさ	20	47.4
雇用・所得	20	56.3
事業創造	20	43.9

【WO:主観 50未満・客観 50以上】

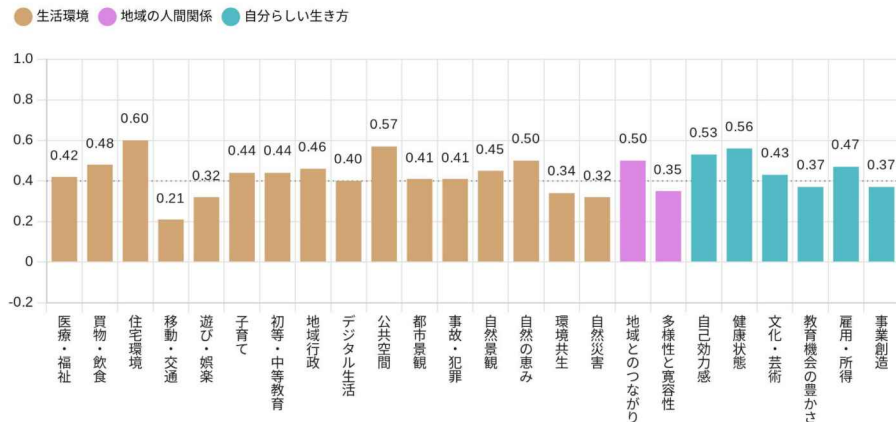
因子	主観	客観
医療・福祉	20	49.2
買物・飲食	25.1	47
住宅環境	51.9	56.6
移動・交通	25	45.1
遊び・娯楽	20	54
子育て	30	46.3
初等・中等教育	29.2	44.5
地域行政	25.4	45
デジタル生活	32.1	49.2
公共空間	36.9	41
都市景観	42.6	35.7
事故・犯罪	26.1	52.5
自然景観	58.2	45.7
自然の恵み	63	56.5
環境共生	30.5	48.5
自然災害	20	49.1
地域とのつながり	37.9	54.2
多様性と寛容性	20	51.2
自己効力感	52.1	51.2
健康状態	56.4	50
文化・芸術	65.3	58.3
教育機会の豊かさ	20	47.4
雇用・所得	20	56.3
事業創造	20	43.9

【WT:主観も客観も 50未満】

因子	主観	客観
医療・福祉	20	49.2
買物・飲食	25.1	47
住宅環境	51.9	56.6
移動・交通	25	45.1
遊び・娯楽	20	54
子育て	30	46.3
初等・中等教育	29.2	44.5
地域行政	25.4	45
デジタル生活	32.1	49.2
公共空間	36.9	41
都市景観	42.6	35.7
事故・犯罪	26.1	52.5
自然景観	58.2	45.7
自然の恵み	63	56.5
環境共生	30.5	48.5
自然災害	20	49.1
地域とのつながり	37.9	54.2
多様性と寛容性	20	51.2
自己効力感	52.1	51.2
健康状態	56.4	50
文化・芸術	65.3	58.3
教育機会の豊かさ	20	47.4
雇用・所得	20	56.3
事業創造	20	43.9

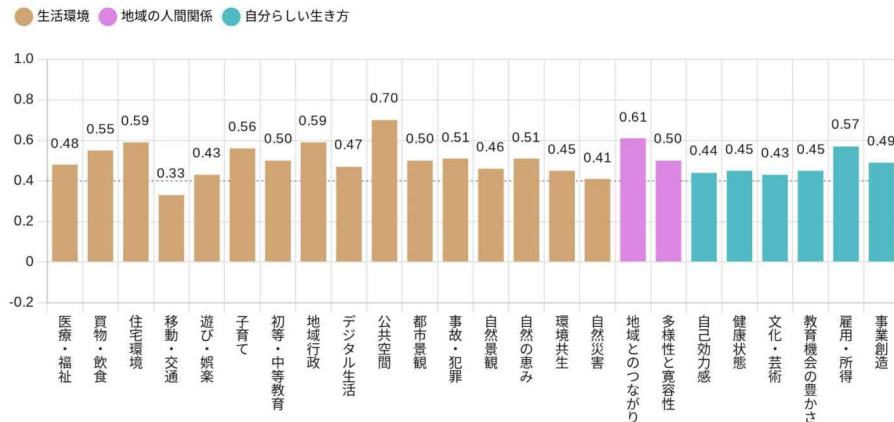
# 4. 舞鶴市民の幸福度・生活満足度と因子の相関関係

幸福度と因子との相関係数



【出典】2025年度版(令和7年度版) Well-Being 個別調査

生活満足度と因子との相関係数



【出典】2025年度版(令和7年度版) Well-Being 個別調査

## <相関係数の目安>

0.7以上：相関が非常に強い

0.4～0.7：相関が強い

0.4未満：相関が弱い

## 5. 舞鶴市の地域特性

- 回答者の幸福度は全国平均と同等である一方、生活満足度は0.7ポイント低い。
- 多くの主観データの 카테고리は、客観データに比べて低い。
- **住宅環境、自然の恵み、文化・芸術、自己効力感**（市民が自分自身を肯定）や**健康状態**は、主観・客観ともに評価が高い。特に、**自己効力感**や**健康状態**は、幸福度と強い相関が見られ、維持していくことが必要。
- **雇用・所得、多様性と寛容性、地域とのつながり**などは、客観的な環境整備に比べ、回答者の実感が伴っていない。特に、**雇用・所得**や**地域とのつながり**は、生活満足度と強い相関が見られ、このギャップを埋めることが回答者の満足度を底上げする機会となる。